

分野	括弧	計画	対象設備・作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月以降	備考			
					14	21	28	4	11	18	25	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中			下		
●原子炉建屋滞留水を2020年末の半分程度に低減(2022~2024年度)	建屋内滞留水		【1~4号機 滞留水移送装置】 (実績) ・1~4号機滞留水移送装置運転 (予定) ・1~4号機滞留水移送装置運転	現場作業	1~4号機滞留水移送装置設置 運転																								(継続運転)	3号機 原子炉建屋滞留水水位低下(T.P.-2800目標) 実施 (2022/6/1~) 【9/29時点水位 約T.P.-2100】 ※段階的に水位低下実施
				設計・検討	詳細設計・工事																								(2023年度 工事完了予定)	
				設計・検討	設計検討																								(2023年度 設計完了予定)	
				設計・検討	詳細設計・工事																								(2024年度 工事完了予定)	
				設計・検討	詳細設計・工事																								(2024年内 工事完了予定)	実績機モックアップ (2022年10月~)
●汚染水発生量を100m3/日以下に抑制(2025年内)	浄化設備		【既設多核種除去設備】 【高性能多核種除去設備】 【増設多核種除去設備】 (実績) ・処理運転 (予定) ・処理運転	現場作業	処理運転(処理水の状況に応じて適宜運転または処理停止)																								(継続運転)	処理水及びタンクのインサース状況に応じて適宜運転または処理停止 増設多核種除去設備 前処理設備改造に係る実施計画変更申請 (2022/4/28認可) 高性能多核種除去設備 除去性能確認に係る実施計画変更申請 (2022/9/28認可)
				現場作業	処理運転																								(継続運転)	サブドレン汲み上げ、運用開始 (2015.9.3~) 排水開始 (2015.9.14~) 5/6号機サブドレンの復旧・汲み上げ・運用開始 (2022.3~)
				現場作業	運転																								(継続運転)	
				現場作業	処理運転																								(継続運転)	2021年1月29日 吸着塔の第二セシウム吸着装置及び第三セシウム吸着装置での再利用の実施計画変更認可 (原核種発第2101291号) 使用前検査: 2022年7月21日 (第二セシウム吸着装置1号) 2022年7月28日 (第二セシウム吸着装置2号) 2022年8月25日 (第二セシウム吸着装置3号) 使用前検査予定: 調整中 (第三セシウム吸着装置1号、2号、3号) 第三セシウム吸着装置の運転計画見直しにより実施時期再調整中
				現場作業	維持管理運転 (北側、南側の一部 2017/5/22~、海側の一部 2017/11/13~、海側全域・山側の一部 2018/3/14~、山側全域2019/2/21完了)																								(継続運転)	
	陸側排水壁		(実績・予定) ・東津島所補助工法は2018年9月に完了 ・維持管理運転2019年2月21日全域展開完了	現場作業	4号機建屋西側																								(継続運転)	4号機建屋西側: 2023年2月完了予定
				現場作業	フェーシング (陸側排水壁内エリア)																								(2023年3月 工事完了予定)	
				現場作業	1-2号Rw/B屋上雨水排水対策工事																									
			(予定) ・7箇所の見直し実施	現場作業	1-4号機建屋周辺トレンチ調査																									

汚染水対策スケジュール (2/2)

分野名	括弧 の 範囲	対象設備・ 作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	8月							9月							10月			11月			12月			1月			2月			3月以降	備考
				14	21	28	4	11	18	25	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下						
●タンク関連		H4エリアNo. 5タンクからの漏えい対策	(実績・予定) ・汚染の拡散状況把握	モニタリング																												(継続実施)		
		タンク解体	(予定) ・Eエリアフランジタンク解体工事 ：49基解体予定 (2023年度中) ・Eエリアフランジタンク (D1) 内の残水回収 (スラッジ含む) (実績) 解体基数 46基/49基	Eエリアフランジタンク解体工事																													(2023年3月解体完了予定)* ※:残水回収中の1基(D1タンク)を除く	2018年9月10日 Eエリアにおける中低濃度タンクの撤去等について (実施計画変更認可)
		タンク設置	・G5エリア溶接タンク設置工事 (実績) 設置基数 17基/17基 付帯設備 (堰等) 設置作業中	G5エリア溶接タンク設置工事 (付帯設備設置作業中)																														2021年11月5日 中低濃度タンク (G4 北、G5 エリア) の設置等の実施計画変更認可 (原規模発第2111054号) G5 : 2022年9月使用前検査受検予定。9月16日 受検完了
●自然災害対策		津波対策	○日本海津波津波対策 ・日本海津波対策防波堤設置 (実績・予定) 斜壁補強構築工事 本体構築工事	斜面補強・本体構築工事																												(2024年3月工事了り予定)	2024年3月完了予定 現場着手: 2021/06/21開始 斜面補強部: 2021年9月14日作業開始 防波堤本体部: 2022年2月15日作業開始	
			○サブドレン集水設備高台機能移転 (実績・予定) ろ過水タンク西側整備工事実施 地盤改良 (準備中)	ろ過水タンク西側整備 (ろ過水配管リルート工事) 地盤改良工事 (準備) 実施中																													(2024年度初旬工事了り予定)	
		豪雨対策	○豪雨対策 ・D排水路新設 (実績) (9月20日時点) 立坑構築工 (円形並立坑部) 100% 立坑構築工 (上流側到達立坑部) 100% 立坑構築工 (下流側到達立坑部) 100% 立坑構築工 (小口径推進部) 100% M+H設置工 (各立坑) 100% トンネル工・推進管埋付 (下流側) 完了 (上流側) 完了	立坑構築工事 (円形並立坑部、下流側到達立坑部、上流側到達立坑部、小口径推進部) 2022年8月30日にD排水路通水開始、鋪装などの残工事があり9月末まで工期を延伸 モニタリング関連設備現場工事																														(2022年8月排水路工事了り予定) (2023年2月モニタリング設備 2系統化完了予定)

水処理設備の運転状況, 運転計画
(2022年9月16日～2022年10月20日)

2022年10月7日
東京電力ホールディングス株式会社

既設多核種除去設備

	16(金)	17(土)	18(日)	19(月)	20(火)	21(水)	22(木)	23(金)	24(土)	25(日)	26(月)	27(火)	28(水)	29(木)	30(金)	1(土)	2(日)	3(月)	4(火)	5(水)	6(木)	7(金)	8(土)	9(日)	10(月)	11(火)	12(水)	13(木)	14(金)	15(土)	16(日)	17(月)	18(火)	19(水)	20(木)							
A	計画停止														点検停止																											
B	点検停止							←																							→							点検停止				
C	←		計画停止			←																							→							点検停止						

増設多核種除去設備

	16(金)	17(土)	18(日)	19(月)	20(火)	21(水)	22(木)	23(金)	24(土)	25(日)	26(月)	27(火)	28(水)	29(木)	30(金)	1(土)	2(日)	3(月)	4(火)	5(水)	6(木)	7(金)	8(土)	9(日)	10(月)	11(火)	12(水)	13(木)	14(金)	15(土)	16(日)	17(月)	18(火)	19(水)	20(木)
A	点検停止														計画停止												点検停止								
B	点検停止														計画停止	点検停止	←			点検停止	←														
C	点検停止																																		

高性能多核種除去設備

	16(金)	17(土)	18(日)	19(月)	20(火)	21(水)	22(木)	23(金)	24(土)	25(日)	26(月)	27(火)	28(水)	29(木)	30(金)	1(土)	2(日)	3(月)	4(火)	5(水)	6(木)	7(金)	8(土)	9(日)	10(月)	11(火)	12(水)	13(木)	14(金)	15(土)	16(日)	17(月)	18(火)	19(水)	20(木)			
A	計画停止																																					

セシウム吸着装置(KURION), 第二セシウム吸着装置(SARRY), 第三セシウム吸着装置(SARRY2)

	16(金)	17(土)	18(日)	19(月)	20(火)	21(水)	22(木)	23(金)	24(土)	25(日)	26(月)	27(火)	28(水)	29(木)	30(金)	1(土)	2(日)	3(月)	4(火)	5(水)	6(木)	7(金)	8(土)	9(日)	10(月)	11(火)	12(水)	13(木)	14(金)	15(土)	16(日)	17(月)	18(火)	19(水)	20(木)			
SARRY	計画停止				←				計画停止				←				計画停止				←				計画停止				←									
SARRY2	←		計画停止			←										計画停止				←											点検停止							
KURION	計画停止																																					

※ 現場状況を踏まえて運転するため, 計画を変更する場合があります。

福島第一原子力発電所の滞留水の水位について

2022年10月7日

(2022年9月16日～2022年10月6日)

東京電力ホールディングス株式会社

	原子炉建屋水位				タービン建屋水位				廃棄物処理建屋水位				集中廃棄物処理施設水位			
	1号機	2号機	3号機		4号機	1号機	2号機	3号機	4号機	1号機	2号機	3号機	4号機	プロセス 主建屋	高温焼却炉 建屋	サイトバンカ 建屋
			HPCI室	トーラス室												
9月16日	-2031	-2901	-2063	-2043	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-93	-318	1302
9月17日	-2036	-2907	-2063	-2041	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-90	-256	1306
9月18日	-2033	-2905	-2050	-2033	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-89	-71	1309
9月19日	-2036	-2894	-2054	-2048	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-87	120	1313
9月20日	-2035	-2886	-2049	-1998	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-85	338	1319
9月21日	-2031	-2879	-2061	-2040	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-145	330	1324
9月22日	-2035	-2880	-2054	-2012	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-223	155	1327
9月23日	-2051	-2886	-2063	-2041	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-241	95	1331
9月24日	-2035	-2894	-2056	-2041	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-240	9	1334
9月25日	-2045	-2903	-2063	-2041	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-238	235	1338
9月26日	-2051	-2903	-2061	-2043	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-236	269	1341
9月27日	-2054	-2879	-2056	-2026	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-233	430	1345
9月28日	-2061	-2882	-2059	-2040	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-222	529	1347
9月29日	-2056	-2884	-2057	-2048	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-218	386	1350
9月30日	-2059	-2889	-2063	-2041	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-213	152	1352
10月1日	-2071	-2896	-2061	-2045	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-211	277	1352
10月2日	-2048	-2901	-2056	-2043	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-209	511	1354
10月3日	-2069	-2900	-2056	-2047	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-207	720	1356
10月4日	-2052	-2900	-2063	-2040	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-264	672	1358
10月5日	-2048	-2903	-2054	-2041	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-342	547	1360
10月6日	-2061	-2889	-2059	-2038	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-419	386	1362
最下階床面高さ	-2666	-4796	-4796	-4796	-4796	443	-1752	-1737	-1739	-36	-1736	-1736	-1736	-2736	-2236	2358

備考欄

※ T.P表記 (単位:mm)

※ 5時時点の水位

※ 1号機タービン建屋の滞留水処理完了(2017年3月)

※ 1号機廃棄物処理建屋の滞留水処理完了(2019年3月)

※ 3号機原子炉建屋水位は、南東三角コーナー水位が停滞している事から水位変動を監視するため一時的に記載(2019年7月5日～)

※ 4号機原子炉建屋の滞留水処理完了(2020年12月)

※ 2～4号機タービン建屋の滞留水処理完了(2020年12月)

※ 2～4号機廃棄物処理建屋の滞留水処理完了(2020年12月)

※ サイトバンカ建屋は過去に滞留水を誤って移送した経緯があり、排水したものの現状も低レベルの汚染が残っていることから、水位を監視している。

《当該建屋内の水は1～4号機建屋及び集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋、高温焼却炉建屋)内の建屋滞留水と切り離されており、放射能濃度も低いことから、建屋滞留水ではない。》

なお、これまでは水位計の測定下限値(約T.P.2700mm)以下まで水位低下処置し監視を行ってきたが、さらに建屋サンプの水位変動を確認するため、2022年4月19日より水位計を移設し連続監視を行う事とした。

各エリア別タンク一覧
1~4号機用汚染水貯蔵タンク

タンク基数、水位、貯蔵量、実容量集約日 2022年9月22日

Table with columns: 罐エリア, 基数, 1基あたり容量(公称) [m3], タンク型, 貯蔵水, H水位 (mm), H容量/基=実容量/基 (m3), 0%以下貯蔵量 (m3), 0%以上貯蔵量(m3), 実容量 (m3), 水位管理 (水位(%), スロッシング考慮(%), HANN(%), HHANN(%)), 放射能濃度(Bq/cc) (Cs-134, Cs-137, Co-60, Mn-54, Sb-125, Ru-106, Sr-90), 測定時期, 概略使用開始時期.

Summary table with columns: 罐エリア, 基数, タンク型, 貯蔵水, H水位 (mm), H容量/基, 0%以下貯蔵量, 0%以上貯蔵量, 実容量, 水位管理, 放射能濃度, 測定時期, 概略使用開始時期.

赤字はアウトオブサービス済の基数
下線部は今回の変更箇所
※1 濃縮塩水/Sr処理水等を貯留した実績あり(G3西及びJ1の一部)
※2 Sr処理水等を貯蔵した実績のあるタンクを再利用したものを含む 再利用した基数 G3西:30、G3北:6、H8南:8、J1:8、K1南:10、K2:26
※3 多核種除去設備処理済水(ALPS処理水等)の放射能濃度について、当社「処理水ポータルサイト」に掲載のデータに参照(3ヶ月毎にデータ更新)
処理水ポータルサイトのURLは以下のとおりです。4ページ中段にある「貯蔵タンクエリア毎の放射能濃度を詳しくみる」をクリックすると、分析結果が表示されます。
https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/
※4 多核種除去設備、高性能多核種除去設備、増設多核種除去設備のサンプルタンクは貯留用タンクではなく水の入れ替わりがあることから、分析対象外とする。

汚染水等構内溜まり水の状況 (2022.9.22時点)

リスク観点より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考
1-2	2号機R/B	2号機R/B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【上屋】 Cs-134: 200~340 Cs-137: 650~1100 全β: 920~1900 Sr-90: 10~20 H-3: ND(<100) (2015.1.16)	
2	5.6号機貯留タンク(フランジタンク)	5.6号機貯留タンク(フランジタンク)	6号機北側	約6,800 (2022.6.13時点) 約4,300 (2022.9.15時点)	Cs-134: 2.9E0 Cs-137: 9.7E1 (2022.7.12)	5・6号建屋滞留水・RO濃縮水を貯留
3	5.6号機貯留タンク(溶接タンク)	5.6号機貯留タンク(溶接タンク)	6号機北側	約5,400 (2022.6.13時点) 約6,100 (2022.9.15時点)	Cs-134: 7.7E0 Cs-137: 4.3E1 (2016.10.3)	5・6号建屋滞留水・RO濃縮水を貯留
4-2	吸着塔一時保管施設	水処理二次廃棄物(SARRY、KURION、ALPS処理カラム、モバイル式処理装置)	吸着塔一時保管施設(第一施設、第四施設)	1程度(1基あたり)	Cs-137: 2.0E3~1.6E7 Sr-90: 5.3E3~4.3E7 (2017.2~2017.3)	
7	濃縮水タンク(蒸発濃縮装置濃縮水)	蒸発濃縮装置濃縮水用ノッチタンク(スラリー/濃縮水)	タンクエリア(Cエリア)	約65※1 (2019.2.1時点)	【蒸発濃縮装置濃縮水】 Cs-134: 1.7E4 Cs-137: 2.5E4 全β: 4.7E8 (2011.12.20)	蒸発濃縮装置濃縮水を貯留 ※1: 全5タンクの水量を測定して算出
9	5・6号機逆洗弁ピット及び吐出弁ピット	6号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット	6号機スクリーン近傍	約850	Cs-134: ND Cs-137: 1.8E0 (2022.2.1)	
		6号機逆洗弁ピット	5号タービン建屋海側	約1,500	Cs-134: 3.0E0 Cs-137: 1.9E1 (2016.10.3)	
		6号機逆洗弁ピット	6号タービン建屋海側	約1,500	Cs-134: 1.5E0 Cs-137: 1.1E1 (2016.10.3)	
10	1~4号機T/B屋根	1号機T/B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【1号機T/B上屋】 Cs-134: 6.4E1 Cs-137: 2.6E3 (2022.5.26) 全β: 4.4E1 (2020.7.29)	
		2号機T/B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【2号機T/B上屋】 Cs-134: ND Cs-137: 1.2E2 (2022.5.26) 全β: 9.9E0 (2020.7.29)	
11	1号CSTタンク(溶接タンク)	1号CSTタンク(溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約740 (2016.10.26)	Cs-134: 2.9E+4 Cs-137: 1.9E+5 全β: 2.2E+5 (2016.11.7)	RO処理水を貯留
12	2号CSTタンク(溶接タンク)	2号CSTタンク(溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1,560 (2022.3.22)	【CST入口水(淡水化装置出口水)】 H-3: 4.9E5 Sr-90: ND (2022.6.3) 5.3E5 1.5E2 (2022.8.9)	2020.3.18より1~3号機炉注水源としての運用開始
				約1,940 (2022.9.10)	【2号CSTタンク貯留水】 Cs-134: 1.6E+02 Cs-137: 1.7E+03 (2018.12.14) 全β: 1.5E+03 (2018.12.19)	
13	3号CSTタンク(溶接タンク)	3号CSTタンク(溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1,980 (2022.3.22) 約1,980 (2022.9.10)	【3号CSTタンク貯留水】 Cs-134: 1.9E+2 Cs-137: 3.5E+3 全β: 6.3E+3 H-3: 7.5E+5 (2020.7.16)	RO処理水を貯留 1~3号機炉注水源
15	地下貯水槽	地下貯水槽No. 1	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 1.3E6 (2018.9.12) (参考: 漏えい検知孔水) 全β: 9.7E3 (2022.8.2) H-3: ND (2019.9.4)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
16	地下貯水槽	地下貯水槽No. 2	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 3.1E6 (2018.9.12) (参考: 漏えい検知孔水) 全β: 1.2E4 (2022.8.3) H-3: ND (2019.9.4)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)

汚染水等構内溜まり水の状況 (2022.9.22時点)

リスク観点より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考	
17	地下貯水槽	地下貯水槽No. 3	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 3.2E6 (2018.9.11) (参考: 漏えい検知孔水) 全β: 9.9E3 (2022.8.5) H-3: ND (2019.9.5)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)	
18	地下貯水槽	地下貯水槽No. 4	タンクエリア	—	【タンク堰内雨水貯水実績あり】 全β: 2.8E4 (2018.9.12)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)	
20	地下貯水槽	地下貯水槽No. 6	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 7.8E6 (2018.9.11) (参考: 漏えい検知孔水) 全β: 4.5E1 (2019.9.5) H-3: ND (2019.9.5)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)	
21	地下貯水槽	地下貯水槽No. 7	タンクエリア	—	【タンク堰内雨水貯水実績あり】 全β: 1.5E2 (2018.9.12)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)	
22	1~4号建屋接続トレンチ	・1号機コントロールケーブルダクト ・集中環境施設廃棄物系共通配管ダクト(2号機廃棄物系共通配管ダクト) ・1号機薬品タンク連絡ダクト 等	1~4号機周辺	約1~170 (2022.1)	Cs-134: ND~2.5E2 Cs-137: 1.4E2~8.3E3 全β: 1.4E2~7.7E3 H-3: ND~7.9E2 (2022.1)	量及び放射性物質濃度の内訳は添付資料(1) 「2021年度トレンチ等内溜まり水調査結果一覧」を参照	
23	2~4号機DG連絡ダクト	・2~4号機DG連絡ダクト	2~4号機機山側	約1,600 (2022.1)	Cs-134: ND Cs-137: 9.3E1 全β: 1.1E2 H-3: ND (2022.1.13)		
24-1	1号機海水配管トレンチ	・1号機海水配管トレンチ	1号機タービン建屋海側	約410 (2022.1)	Cs-134: ND Cs-137: 4.1E1 全β: 4.5E1 (2022.1.13)		
26	3号機起動用変圧器ケーブルダクト	・3号機起動用変圧器ケーブルダクト	3号機機山側	約830 (2022.1)	Cs-134: 4.8E1 Cs-137: 4.0E2 全β: 4.4E2 H-3: ND (2017.10)		
28	1~4号建屋未接続トレンチ	・2号機変圧器防災用トレンチ ・消火配管トレンチ(3号機東側) ・1号機主変圧器ケーブルダクト ・1号機廃液サージタンク連絡ダクト ・1号機オフガス配管ダクト 等	1~4号機周辺	約6~830 (2022.1)	Cs-134: ND~1.0E1 Cs-137: 1.1E1~2.5E2 全β: 1.9E1~2.5E2 H-3: ND (2022.1)	量及び放射性物質濃度の内訳は添付資料(1) 「2021年度トレンチ等内溜まり水調査結果一覧」を参照	
29	1~4号機サブドレンビット No.15,16(未復旧ビット)	・サブドレンビットNo.15,16	1~4号機周辺 「未復旧」	約20	【No.16】 Cs-134: 6.8E3 Cs-137: 2.6E5 全β: 2.8E5 H-3: 3.2E3 (2022.7.4)		
30	その他1~4号機サブドレン(ディーブウェル含む)(未復旧ビット)	・1号機~4号機サブドレン	1~4号機周辺 「未復旧」	約15/ビット	【No.47.48】 Cs-134: ND~3.9E1 Cs-137: 4.8E1~9.6E1 全β: 7.9E1~2.8E2 H-3: ND (2014.11.10)		
32	1号機放水路 (出口を閉塞済)	・1号機放水路 (出口を閉塞済)	1~4号タービン建屋海側	約5,220 (2022.1)	【放水路上流側立坑】 Cs-134: 2.1E2 Cs-137: 8.0E3 全β: 1.0E4 H-3: ND (2022.8.15)	3.1E2 1.1E4 1.4E4 ND (2022.8.19)	
33	2号機放水路 (出口を閉塞済)	・2号機放水路 (出口を閉塞済)	2~4号機タービン建屋海側	約5,350 (2022.1)	【放水路上流側立坑】 Cs-134: 2.2E1 Cs-137: 9.8E2 全β: 1.6E3 H-3: ND (2022.8.15)	2.3E1 9.0E2 1.5E3 ND (2022.8.19)	
34	3号機放水路 (出口を閉塞済)	・3号機放水路 (出口を閉塞済)	3~4号機タービン建屋海側	約3,360 (2022.1)	Cs-134: ND Cs-137: 4.2E2 全β: 5.9E2 H-3: ND (2022.7.13)	ND 4.3E2 5.2E2 ND (2022.8.19)	
35	キャスク保管建屋	・キャスク保管建屋	物揚場 西側	約4,500	Cs-134: 7.2E0 Cs-137: 2.3E1 I-131: ND Co-60: ND 全β放射能: 3.1E1 全γ放射能: - (2014.5.23)		
36	5号CSTタンク (溶接タンク)	・5号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1170 (2022.9.14)	Cs-134: ND Cs-137: ND Co-60: 6.3E1 (2022.7.11)	ND ND 5.9E1 (2022.8.19)	プラント保有水を貯留
37	6号CSTタンク (溶接タンク)	・6号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1630 (2022.9.14)	Cs-134: ND Cs-137: ND Co-60: ND (2022.7.5)	ND ND 1.2E1 (2022.8.19)	プラント保有水を貯留
38	5/6号他 トレンチ	・5号機海水配管トレンチ ・5号機蒸気ストームドレン配管トレンチ ・5号機重油配管トレンチ(東側) ・5号機放射性流体用配管ダクト ・5号機主変圧器ケーブルダクト 等	5~6号機周辺	約1~1,870 (2022.1)	Cs-134: ND~1.7E0 Cs-137: ND~5.1E1 (2022.1)	量及び放射性物質濃度の内訳は添付資料(1) 「2021年度トレンチ等内溜まり水調査結果一覧」を参照	

汚染水等構内溜まり水の状況 (2022.9.22時点)

リスク観点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考
40	キャスク保管建屋サブドレン	・キャスク保管建屋サブドレン	物揚場 西側	約15/ピット	Cs-134:1.0E+1 Cs-137:1.4E+1 Co-60:<6.0E-01 全γ放射能:2.4E+1 (2012.1.18)	
41	SPTタンク(1~4号)(A) (溶接タンク)	・SPTタンク(1~4号)(A) (溶接タンク)	SPT建屋	約2,800 (2015.3.25時点)	Cs-134:8.0E+4 Cs-137:1.0E+5 Co-60:6.5E+2 (2013.8.27)	プラント保有水等を貯留
42	集中ラド周リサブドレン	・集中ラド周リサブドレン	主プロセス建屋等 各建屋周辺	約15/ピット	Cs-134: ND Cs-137: ND~4.6E1 (2022.8.17)	ND ND~8.0E1 (2022.8.21)
44	純水タンクNo.1	・純水タンク	屋外(建屋エリア)	約850	Cs-134: 2.1 Cs-137: 7.2 全β: 12.2 H-3: ND (2015.5.29)	震災後、坂下ダム補給水を貯留
45	5/6号機建屋滞留水	・5/6号機建屋滞留水	5~6号機	約8,500 (2022.3.24時点) 約9,000 (2022.9.15時点)	【5号機】 Cs-134: ND Cs-137: 1.3E0 全β: ND H-3: ND (2022.7.14)	ND 1.9E0 ND ND (2022.8.28)
					【6号機】 Cs-134: ND Cs-137: 1.3E0 全β: ND H-3: ND (2022.7.15)	ND 2.2E0 ND ND (2022.8.28)
46	排気筒ドレンサンブピット	・1/2号排気筒ドレンサンブピット	1~4号機周辺	約0.3 [※] <small>※適宜溜まり水の移送を実施</small>	Cs-134: 2.2E5 Cs-137: 9.1E6 全β: 8.4E6 (2022.6.29)	1.9E5 7.3E6 7.7E6 (2022.7.28)
		・3/4号排気筒ドレンサンブピット	1~4号機周辺	約2	Cs-134: 1.5E1 Cs-137: 5.7E2 全β: 6.5E3 (2022.3.31)	
		・5/6号排気筒ドレンサンブピット	5/6号機周辺	約7.6 (2020.3.12)	Cs-134: ND Cs-137: 9.5E0 全β: ND (2022.3.30)	
		・集中RW排気筒ドレンサンブピット	1~4号機周辺	約10	Cs-134: 1.3E1 Cs-137: 3.0E2 全β: 2.7E2 (2022.2.16)	
47	固体廃棄物貯蔵庫(6~8号棟)	固体廃棄物貯蔵庫(6~8号棟)	固体廃棄物貯蔵庫 (6~8号棟)	約200	Cs-134: ND Cs-137: 5.3E+1 全β: 4.8E+1 (2017.11.10)	

各建屋地下エリアの滞留水貯留状況

最終更新：2020/2/8
東京電力ホールディングス株式会社

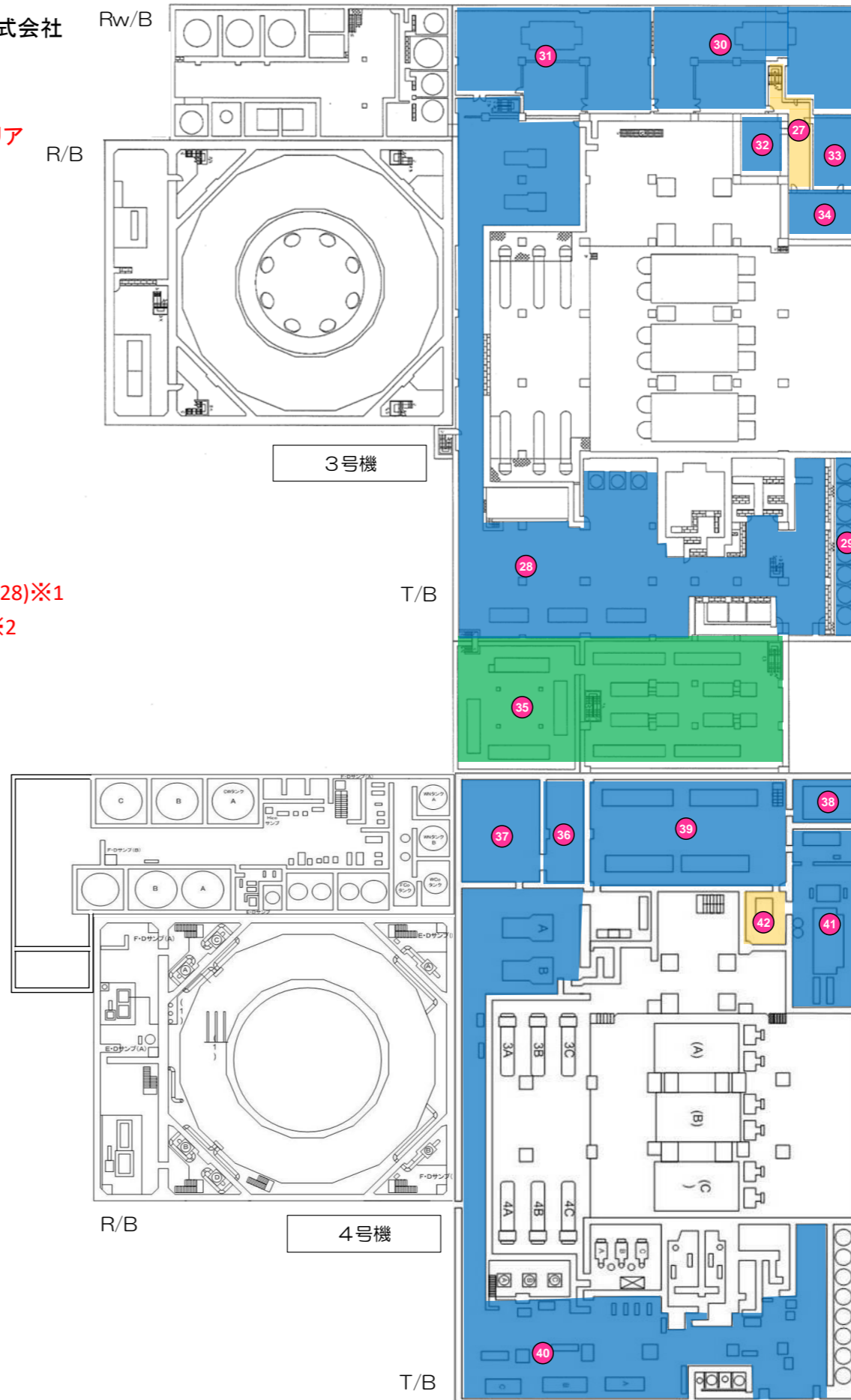
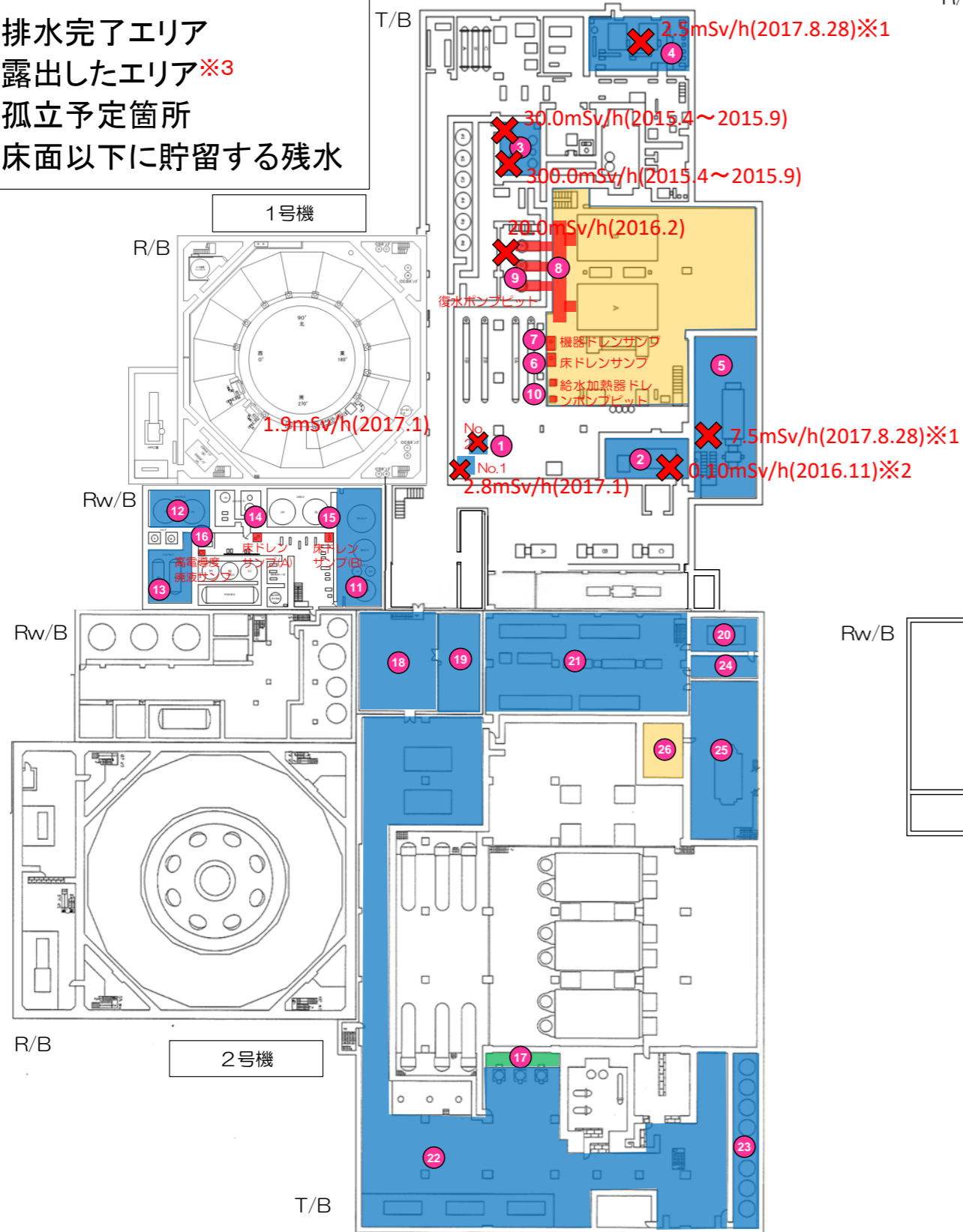
水位安定エリア等については線量測定が実施出来た場合、測定結果を記載している。

※1: 1階床面より3m程度挿入した箇所にて測定

※2: 作業エリアである1階床面で測定

※3: 孤立すると予想したエリアだが連通が確認されたため、建屋に滞留する滞留水のままと判断したエリア

- : 排水完了エリア
- : 露出したエリア※3
- : 孤立予定箇所
- : 床面以下に滞留する残水



福島第一原子力発電所における固体廃棄物について

実施計画 記載箇所	大分類	小分類	保管場所	保管形態	保管量 ^{※1, 11, 12}	保管容量 ^{※1, 12}	管理方法		主要 核種
							実施内容 ^{※9}	頻度	
III 第1編 39条 第2編 87条の2	瓦礫類	<ul style="list-style-type: none"> 地震、津波、水素爆発により飛散した瓦礫 フォールアウトにより汚染した設備・資機材で廃棄する物（建屋、制御盤、廃車両等） 設備の点検・工事により発生する交換品等（ポンプ、バルブ、配管、フランジタンク等） 設備運転に伴い発生する消耗品等（空調フィルタ等） 工事等のため構内に持ち込んだ消耗品（梱包材、型枠、セメント用空袋等） 回収した土壌 	屋外	・屋外集積（～0.1mSv/h）	238,000 m ³ [+500 m ³]	266,300 m ³ (299,000 m ³)	・人が容易に立ち入れないよう区画	—	Cs-137 Cs-134 等 ^{※7}
				・シート養生（～1mSv/h）	47,700 m ³ [0 m ³]	50,700 m ³ (77,400 m ³)	・巡視を行い、容器の転倒、落下や養生シートに破れがないこと、その他異常が無いことを確認	週1回	
				・覆土式一時保管施設、容器収納（1mSv/h～30mSv/h）	16,800 m ³ [0 m ³]	17,900 m ³ (18,500 m ³)	・空間線量率を測定し表示	週1回	
			固体廃棄物貯蔵庫	・容器収納	28,000 m ³ [微減 m ³]	39,600 m ³ (64,700 m ³)	・空気中の放射性物質濃度を測定	6ヶ月に1回 ^{※2}	
				瓦礫類の合計		330,400 m ³ [+500 m ³]	374,400 m ³ (459,500 m ³)	・槽内の溜まり水の有無を確認（覆土式一時保管施設）	
	使用済保護衣等	<ul style="list-style-type: none"> タイベック 下着類 ゴム手袋 その他保護衣、保護具 	屋外	・容器収納	27,700 m ³ [-2,700 m ³]	52,500 m ³ (58,700 m ³)	・煙、水蒸気、濁り水（黒・茶色）、空気の揺らぎが発生していないこと（屋外集積の伐採木）	週1回 ^{※3}	
			建屋	・袋詰め					
	伐採木	<ul style="list-style-type: none"> 枝葉根 幹根 	屋外	・伐採木一時保管槽	37,300 m ³ [0 m ³]	41,600 m ³	・伐採木一時保管槽における温度監視	週1回 ^{※3}	
				・屋外集積	2,100 m ³ [+100 m ³]	6,000 m ³	・保管量を確認し、保管容量が確保されていることを確認	月1回	
			伐採木の合計		129,400 m ³ [+100 m ³]	175,600 m ³ (175,600 m ³)	—		
—									
III 第1編 40条 第2編 87条の3	水処理二次廃棄物（水処理により放射性物質を濃縮した廃棄物）	凝集沈殿物	廃スラッジ貯蔵施設	・造粒固化体貯槽【除染装置】	492 m ³ [+50 m ³]	700 m ³	・免震重要棟にて液位を監視し、漏えいの有無を監視	常時	Cs-137 Cs-134 Sr-90等
			使用済セシウム吸着塔一時保管施設	・HIC【多核種除去設備、増設多核種除去設備】（最大約13mSv/h）	4,042 本 [+15 本]	4,192 本	・人が容易に立ち入れないよう区画	—	
		・HIC【多核種除去設備、増設多核種除去設備】（最大約23mSv/h）				・空間線量率を測定し表示	—		
		・吸着塔【第二セシウム吸着装置、第三セシウム吸着装置、高性能多核種除去設備、RO濃縮水処理設備】（最大約1.2mSv/h）		396 本 [0 本]	584 本	・巡視を行い、コンクリート製ボックスカルバート等に異常が無いことを確認	—		
		・処理カラム【多核種除去設備】（最大約0.2mSv/h）							
		・吸着塔【セシウム吸着装置、モバイル式処理装置、モバイル型Sr除去装置、第二モバイル型Sr除去装置、サブドレン他浄化装置、高性能多核種除去設備検証試験装置】（最大約250mSv/h）		979 本 [0 本]	1,596 本	・貯蔵量を確認し、貯蔵可能容量が確保されていることを確認	週1回		
		・容器収納【モバイル型Sr除去装置】（最大約0.5mSv/h）							
		フィルタ	屋外	・容器収納【高性能多核種除去設備、RO濃縮水処理設備】（最大約0.5mSv/h）	瓦礫類に含む		瓦礫類と同様	—	
			固体廃棄物貯蔵庫	・容器収納【サブドレン他浄化装置】					
		・RO装置のフィルタ類	屋外	・容器収納【SFP塩分除去装置】（最大十数mSv/h）	瓦礫類に含む		瓦礫類と同様	—	
樹脂	固体廃棄物貯蔵庫	・容器収納【SFP塩分除去装置】（最大十数mSv/h）	瓦礫類に含む		瓦礫類と同様	—			
		・容器収納【雨水処理設備等】（最大2mSv/h）							

福島第一原子力発電所における固体廃棄物について

実施計画 記載箇所	大分類	小分類	保管場所	保管形態	保管量 ^{※1, 11, 12}	保管容量 ^{※1, 11, 12}	管理方法		主要 核種	
							実施内容 ^{※9}	頻度		
Ⅲ 第1編 38条 第2編 87条	放射性固 体廃棄物 等	・震災前に発生した放射性固体廃棄物	固体廃棄 物貯蔵庫	・ドラム缶収納	ドラム缶 175,661 本	ドラム缶 (約318,500 本相当)	・巡視による保管状況の確認及び保管量 の確認	月1回	Co-60 等	
				・その他	ドラム缶 10,155 本					
		・震災後に発生した放射性固体廃棄物 (焼却灰等)	・ドラム缶収納、ボックスコンテナ収納	3,115 本 [+38 本]						
		・使用済制御棒等	サイトバ ンカ	・水中保管	12,125 本 193 m ³ ^{※4}	—		・事故前の保管量の推定値により確認		3ヶ月に1 回
		・イオン交換樹脂、造粒固化体	タンク等	・タンク等に貯蔵	3,546 m ³ ^{※5}	—		・貯蔵量の確認 ^{※8}		3ヶ月に1 回
		・使用済制御棒等	使用済燃 料プール	・水中貯蔵	11,422 本 ^{※6}	—	・使用済燃料共用プールの巡視	月1回		
							・使用済燃料共用プールの貯蔵量の確認	3ヶ月に1 回		
— ^{※10}	瓦礫等	・回収した瓦礫等	屋外	・屋外集積、シート養生、容器収納、雨水等侵入防止養生	—	63,900 m ³ [0 m ³]	・人が容易に立ち入れないよう区画 ・空間線量率を測定し表示	—	Cs-134 Cs-137 等	
			建屋	・屋内集積、シート養生、容器収納、雨水等侵入防止養生	—	800 m ³ [0 m ³]				
	水処理二 次廃棄物	・樹脂、ゼオライト、RO膜等	-	・容器収納、容器収納の上 シート養生	—	100 m ³ [0 m ³]				
				仮設集積の合計	—	64,900 m ³ [0 m ³]				

- ※1 瓦礫類、使用済保護衣等、伐採木、仮設集積物、震災後に発生した放射性固体廃棄物（焼却灰等）は2022年8月31日現在、水処理二次廃棄物は2022年9月1日現在の保管量及び保管容量である。尚、瓦礫類、使用済保護衣等及び伐採木の下段に（ ）で記載している保管容量は、実施計画（2022年7月22日認可）に記載している保管容量である。
- ※2 屋外集積及びシート養生の瓦礫類、使用済保護衣等、並びに屋外集積の伐採木は、3ヶ月に1回。
- ※3 6月～9月は、1週間に3回。
- ※4 2022年3月末時点の保管量。内訳は、制御棒：1,167本、チャンネルボックス：9,818本、ヒューエルサポート：3本、中性子検出器：1,137本、その他（シュラウド切断片等）：193m³。
- ※5 2022年3月末時点の保管量。内訳は、イオン交換樹脂：2,398m³、造粒固化体：1,148m³。
- ※6 2022年3月末時点の保管量。内訳は、制御棒：281本、チャンネルボックス：10,539本、ポイズンカーテン：173本、ヒューエルサポート：54本、中性子検出器：375本。
- ※7 廃棄物の処理・処分に必要となる、廃棄物の性状把握のため、汚染水、瓦礫類、伐採木及び立木について、放射能濃度分析を実施しており、今後も継続する。分析した試料の中には、C-14（半減期：約5.7×10³年）、Ni-63（半減期：約1.0×10²年）、Se-79（半減期：約1.1×10⁶年）、Tc-99（半減期：約2.1×10⁵年）、I-129（半減期：約1.6×10⁷年）等が検出されているものがある。
- ※8 1～4号機廃棄物処理建屋等の水没や高線量の理由によりアクセスできないタンクについてはこの限りではない。
- ※9 アンダーラインの実施内容は、実施計画（2022年7月22日認可）に未記載。
- ※10 仮設集積しているのは、瓦礫類、伐採木、水処理二次廃棄物等であり、QJ-54・1F-R5-002 瓦礫等管理要領に基づき、ロープや柵等の区画を行い、立ち入りを制限する標識を掲示する措置を講じている。
- ※11 []は、当該の報告とその前月との差を示している。
- ※12 一部の値について端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。また、50m³未満の増減を微増・微減と示している。

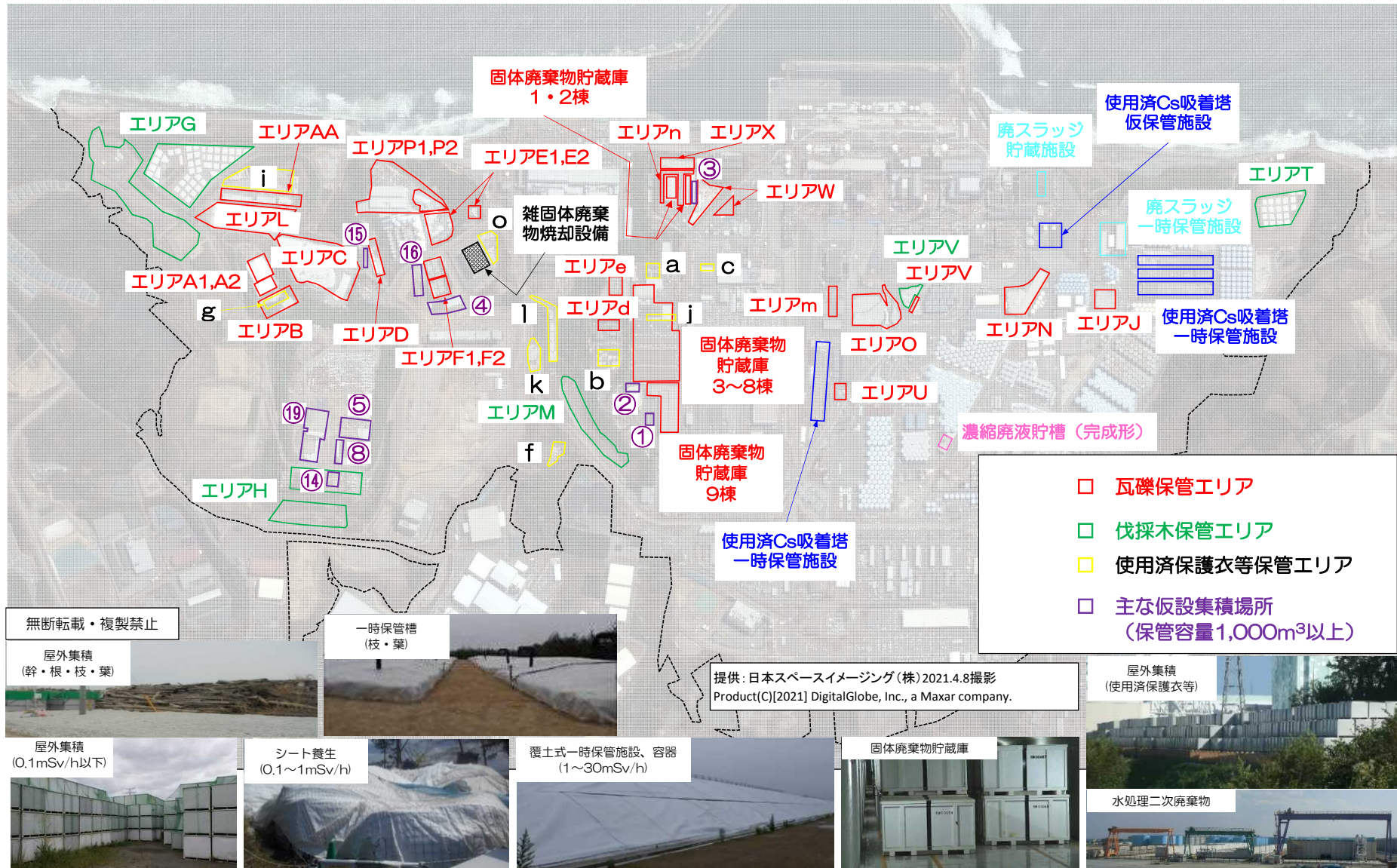
ガレキの保管量の現状※1, 2, 3

保管形態	受入目安表面線量率 (mSv/h)	エリア名称	保管容量	保管量	前回比	保管容量合計	保管量合計	2022年度末 想定保管量※4
屋外集積 (~0.1mSv/h)	≦0.001	AA	36,400 m ³	21,700 m ³	+200 m ³	266,300 m ³	238,000 m ³	271,900 m ³
	≦0.005	A2	9,500 m ³	- m ³ ※5	- m ³ ※5			
		J	6,300 m ³	6,200 m ³	0 m ³			
	≦0.01	A1	4,300 m ³	2,200 m ³	0 m ³			
		B	5,300 m ³	5,300 m ³	0 m ³			
		C	31,000 m ³	31,000 m ³	0 m ³			
	≦0.025	C	35,000 m ³	34,500 m ³	+200 m ³			
	≦0.028	U	800 m ³	700 m ³	0 m ³			
	≦0.1	C	1,000 m ³	1,000 m ³	0 m ³			
		F2	6,400 m ³	6,400 m ³	0 m ³			
		N	9,700 m ³	9,600 m ³	0 m ³			
		O	44,100 m ³	44,000 m ³	0 m ³			
		P1	62,700 m ³	62,300 m ³	-200 m ³			
		V	6,000 m ³	6,000 m ³	0 m ³			
d		1,200 m ³	1,200 m ³	0 m ³				
e	6,700 m ³	5,900 m ³	+400 m ³					
シート養生 (~1mSv/h)	≦0.3	D	2,700 m ³	2,600 m ³	0 m ³	50,700 m ³	47,700 m ³	77,100 m ³
	≦1	E1	15,400 m ³	14,700 m ³	0 m ³			
		P2	6,700 m ³	5,800 m ³	0 m ³			
		W1	11,600 m ³	10,500 m ³	0 m ³			
		W2	0 m ³	0 m ³	0 m ³			
		X	7,900 m ³	7,700 m ³	0 m ³			
		m	3,100 m ³	3,000 m ³	0 m ³			
		n	3,300 m ³	3,300 m ³	0 m ³			
覆土式一時保管施設、容器収納 (1mSv/h~30mSv/h)	≦10	F1	700 m ³	200 m ³	0 m ³	17,900 m ³	16,800 m ³	33,600 m ³
	≦30	E2	1,200 m ³	600 m ³	0 m ³			
		L	16,000 m ³	16,000 m ³	0 m ³			

仮設集積の管理状況※1, 2

分類	場所	保管容量	保管量	前回比
仮設集積※6	①	3,000 m ³	2,700 m ³	0 m ³
	②	3,000 m ³	3,000 m ³	0 m ³
	③	2,000 m ³	2,000 m ³	0 m ³
	④	7,700 m ³	5,400 m ³	0 m ³
	⑤	14,000 m ³	12,300 m ³	+800 m ³
	⑥			
	⑦			
	⑧	4,500 m ³	3,600 m ³	0 m ³
	⑨			
	⑩			
	⑪			
	⑫			
	⑬			
	⑭	2,200 m ³	2,200 m ³	0 m ³
	⑮	2,000 m ³	1,900 m ³	-100 m ³
	⑯	3,600 m ³	2,600 m ³	0 m ³
	⑰			
	⑱	20,700 m ³	15,100 m ³	+2,100 m ³

- ※1 瓦礫類、仮設集積物は2022年8月31日現在の保管量及び保管容量である。保管容量は運用上の上限を示している。
 ※2 一部の値について端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。また、50m³未満の増減を微増・微減と示している。
 ※3 各受入目安線量率において、固体廃棄物貯蔵庫の保管量は除いて記載。
 ※4 瓦礫類の想定保管量は、実施計画（2022年7月22日認可）の予測値を示している。
 ※5 エリアA2は低線量エリアとした（2020年1月6日認可）が、移行期間のため「-」と記載。
 ※6 保管容量が1,000m³以上の仮設集積場所について記載。



ALPS処理水希釈放出に係わる工事のうち 5,6号機取水路開渠内の工事について

2022年10月7日

東京電力ホールディングス株式会社



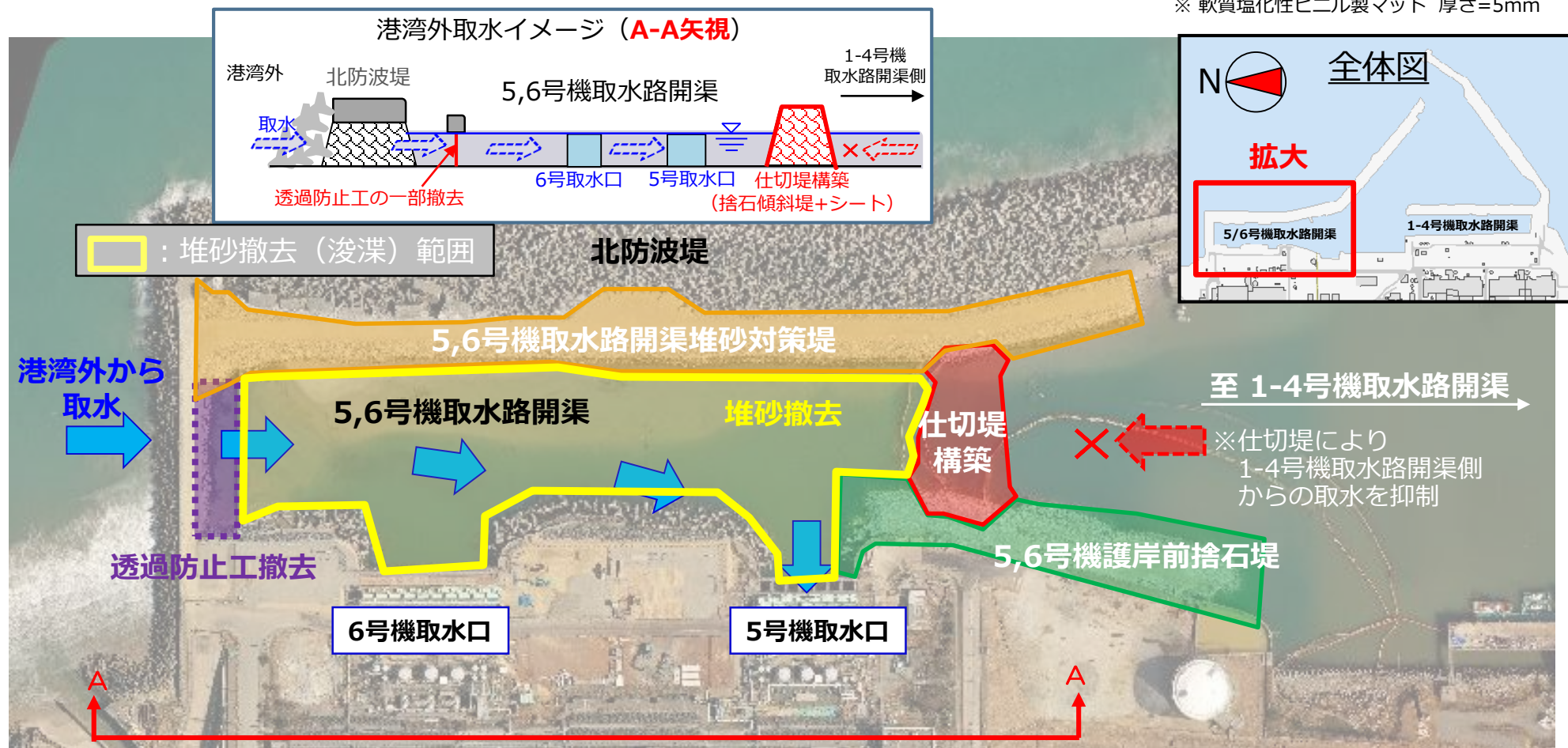
<ご説明内容>

- ① ALPS処理水を希釈する海水取水のため、5,6号機取水路開渠において、仕切堤の設置および透過防止工の一部撤去工事を行います。
- ② 5,6号機取水路開渠内の環境の改善のため、5,6号機取水路開渠内に堆積している土砂を撤去（浚渫）します。
- ③ 工事中は、濁り（放射性物質）拡散防止のため、5,6号機取水路開渠入口、取水口前にシルトフェンスを設置するとともに、海水サンプリング、濁度測定を行います。
- ④ 浚渫土砂は、北側護岸（浚渫土置き場）へ運搬し、浚渫工事完了後に福島県から浚渫土（量）等の最終確認を頂いた後に、第四土捨場に運搬いたします。

5,6号機取水路開渠内における工事の概要

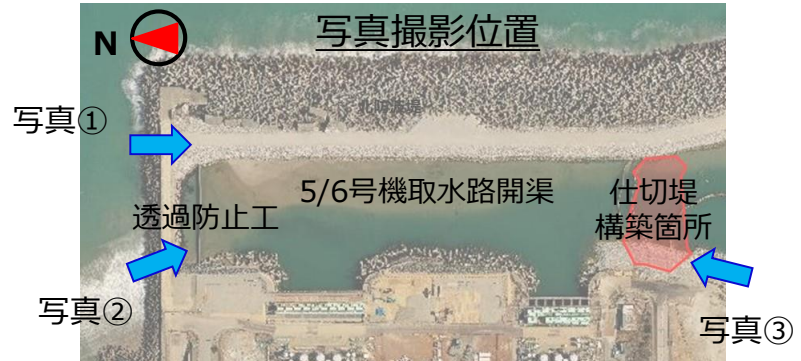
- 比較的放射性物質濃度の高い1-4号機側の港湾から、5,6号機取水路開渠を仕切るため、仕切堤（捨石傾斜堤+シート※）を構築します。
- 港湾外から希釈用の海水を取水するため、北防波堤の透過防止工の一部を撤去します。
- 5,6号機取水路開渠内の取水環境改善を目的に堆積土砂を撤去（浚渫）します。

※ 軟質塩化性ビニル製マット 厚さ=5mm



5,6号機取水路開渠内における工事状況

- 8月4日より、仕切堤設置工事に向けて、重機走行路整備等の準備工事を実施しています。今後、5・6号海側工事エリアでは、取水路開渠内の堆砂撤去を並行して行うとともに、仕切堤設置後には透過防止工の撤去を予定しています。



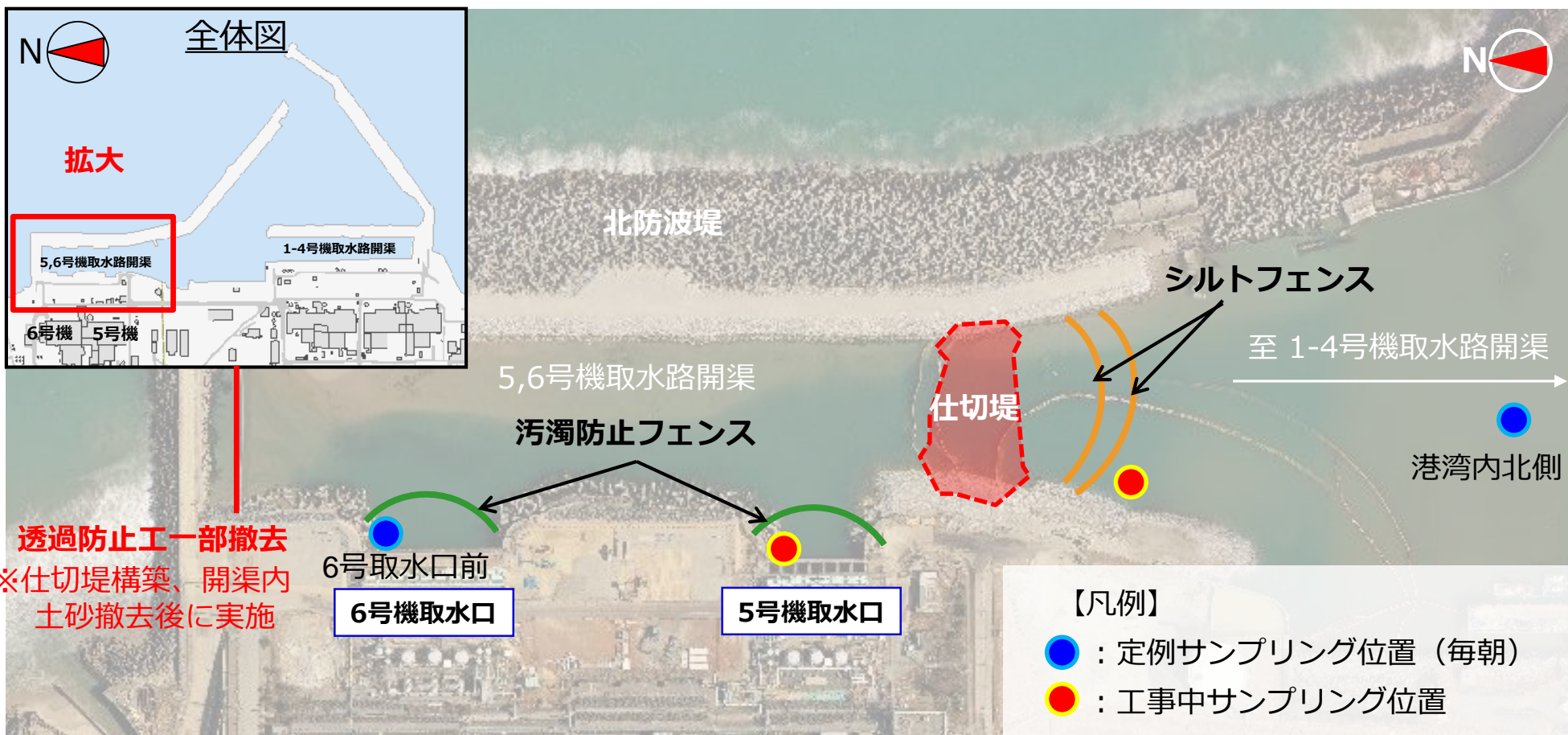
※今後、港湾外から希釈用の海水を取水するため、北防波堤の透過防止工の一部を撤去する予定です。



重機走行路整備の状況

5・6号機海側工事エリアの状況

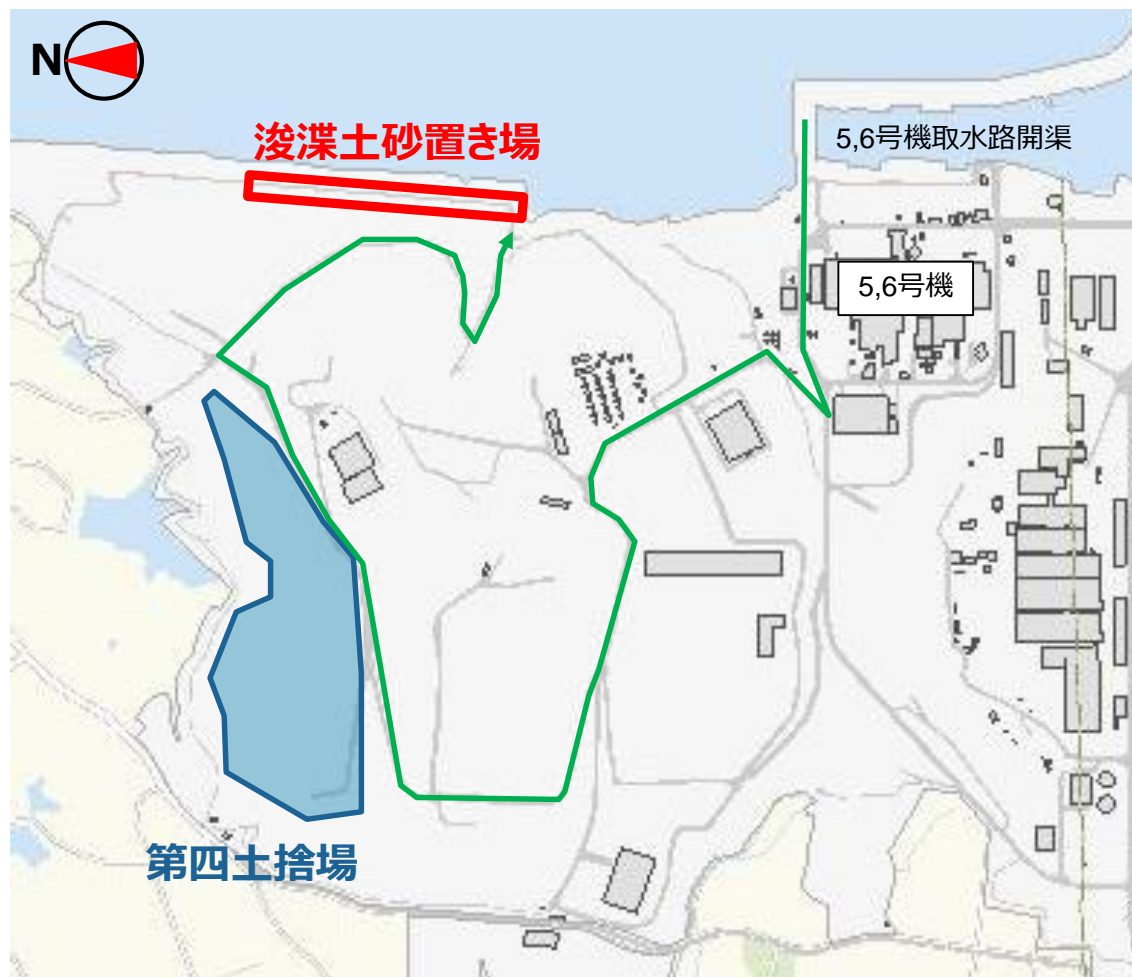
- 5,6号機取水路開渠内での工事中は、5,6号機取水への放射性物質拡散抑制のため、取水口前に汚濁防止フェンスを設置するとともに、港湾内の放射性物質濃度上昇および濁りの拡散がないことを確認します。
- 港湾内における定例のサンプリング（毎朝、セシウム濃度）を継続します。



5,6号取水路開渠 全体概要図

5,6号機取水路開渠浚渫土砂の扱いについて（1）

- 5,6号機取水路開渠内の環境改善に伴う浚渫土砂約2万m³については、まず陣場沢川河口の北側護岸エリアの浚渫置き場に運搬し、浚渫工事完了後に福島県から浚渫土（量）等の最終確認を頂いた後に、第四土捨場に運搬いたします。
- 第四土捨場への運搬は、2023年度後半以降からを予定しております。



— : 浚渫土砂運搬ルート

土捨場および浚渫土砂置き場位置図

5,6号機取水路開渠浚渫土砂の扱いについて（2）

- 5,6号機取水路開渠内の浚渫土砂は、水抜き・改良（※1）した上で、ダンプトラックにて北側護岸の浚渫置き場（※2）に運搬します。
- 浚渫土砂は、土捨て場の受入れ基準（表面線量率 γ ：0.01mSv/h未満， β ：検出なし）と同等の扱いを行い、運搬します。

※1一般に浚渫土砂改良に用いられる高含水泥土改良剤を使用

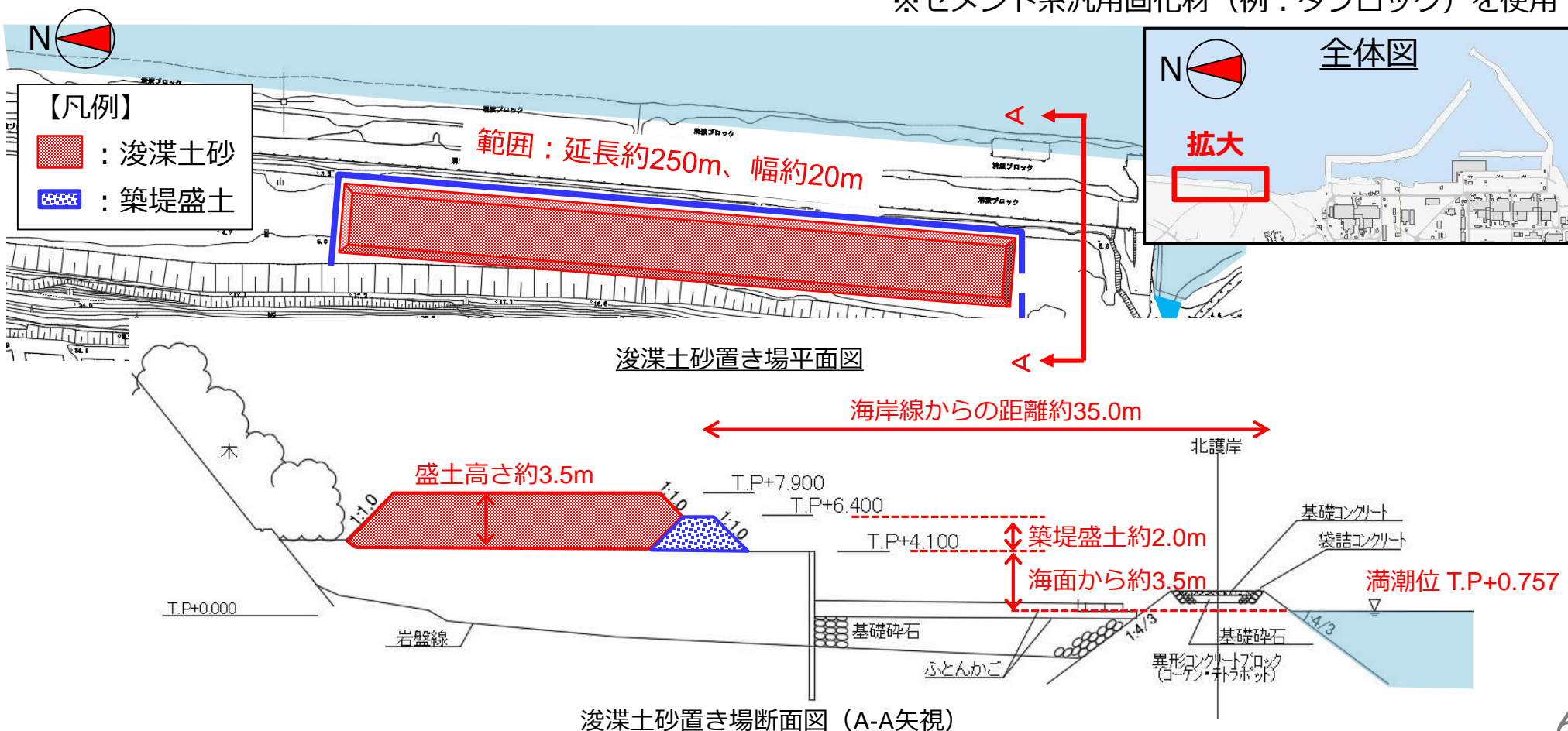
※2北側護岸の浚渫置き場は、震災前に港湾内を浚渫した浚渫土砂を仮置きしていた場所



5,6号機取水路開渠浚渫土砂の扱いについて（3）

- ▶ 浚渫土砂の置き場全体を囲うように、海岸線から陸側に約35.0m、満潮時の海水面からの高さ約3.5mの位置に、高さ約2m（T.P+6.4m）の築堤盛土をセメント※改良土にて構築します。
- ▶ 浚渫土砂は、築堤盛土の陸側に高さ約3.5m（T.P+7.9m）の高さとしませんが、セメント※を更に添加することで、安定した盛土とします。

※セメント系汎用固化材（例：タフロック）を使用



工種	9月	10月	11月	12月	～	6月
仕切堤構築	▼9月下旬～	捨石投入			～3月頃	
浚渫	準備工（ヤード整備、浚渫工事準備等）					
		▼10月初旬～	堆積土砂撤去（浚渫）			
		▼10月初旬～	堆積土砂運搬（北側護岸）			
						浚渫終了後の県確認後 第四土捨場へ移動 (2023年度後半以降～)
透過防止工撤去						▼4月頃～

※工程は気象海象状況等により変更となります。

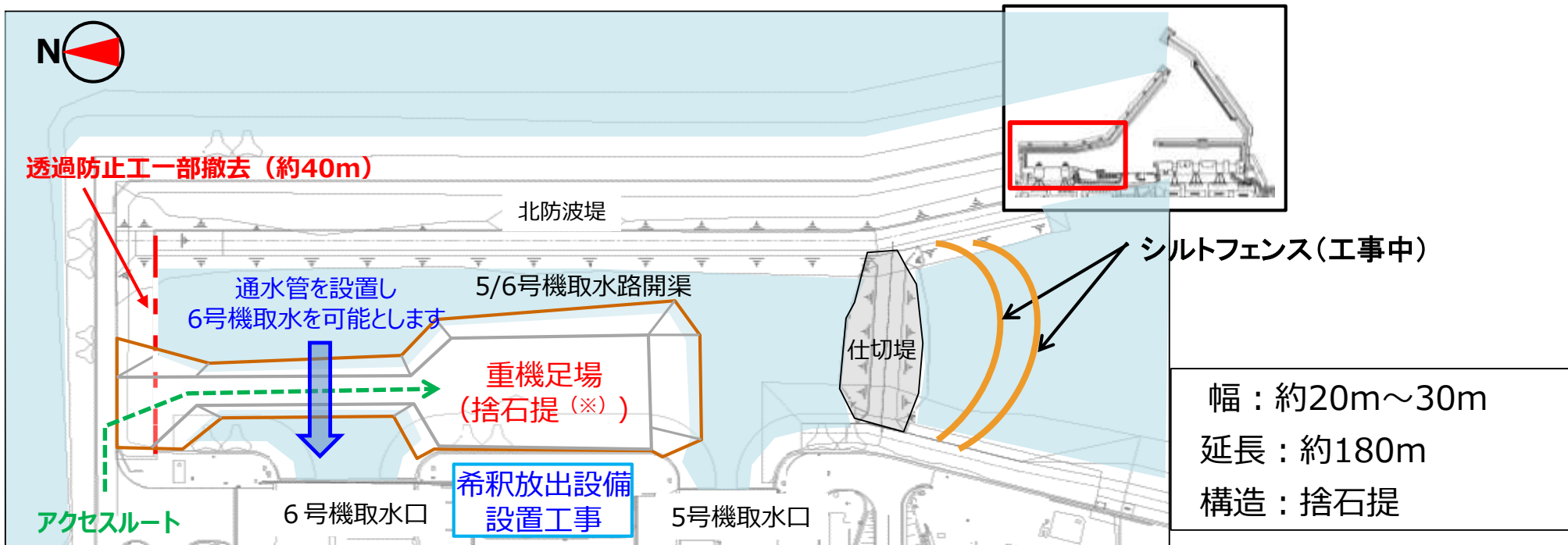
5 / 6号取水路開渠内における工事用重機足場の設置について

資料6

(追加説明資料)



- 工事をより安全に施工する観点で、北防波堤の透過防止工一部撤去や陸上側の希釈放出設備設置工事のための重機足場として、5/6号機取水路開渠内に工事用一時仮設物として、捨石堤を約1年間設置する。
- 設置方法は、仕切堤と同様に陸上からバックホウにて捨石を巻き出し設置する。なお、工事完了後には、捨石堤は撤去します。
- なお、浚渫工事も並行して実施しますが、工事干渉しないよう調整します。

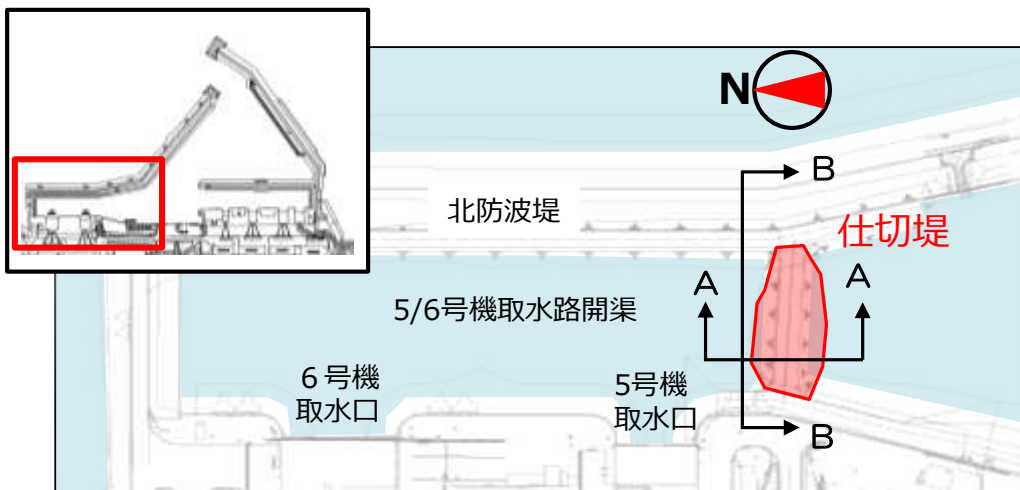


工事用一時仮設物 (重機足場) イメージ図 (平面図)

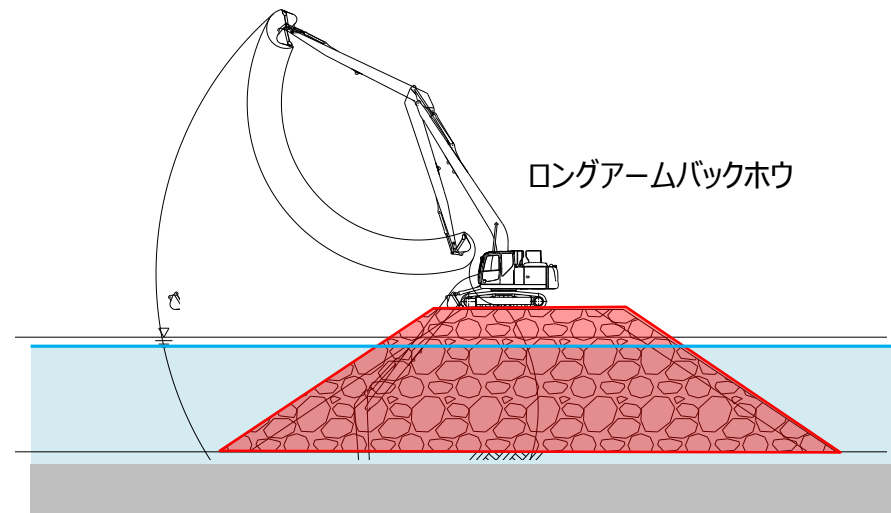
※捨石堤は、海水は透過する構造

(参考) 仕切堤の設置

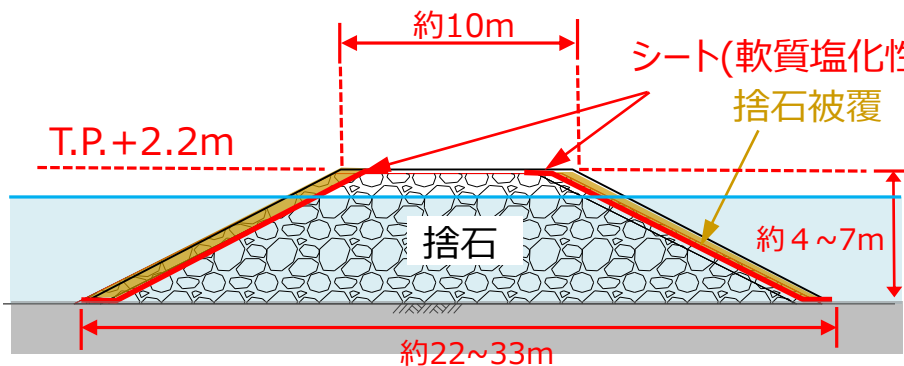
- 陸上からバックホウにて捨石を巻き出し、仕切堤を設置します。
- 仕切堤の天端高さはT.P.+2.2mであり、HHWL(既往最高潮位 : T.P.+1.15m)の条件よりも高く、1-4号機側からの海水の流入を抑制します。



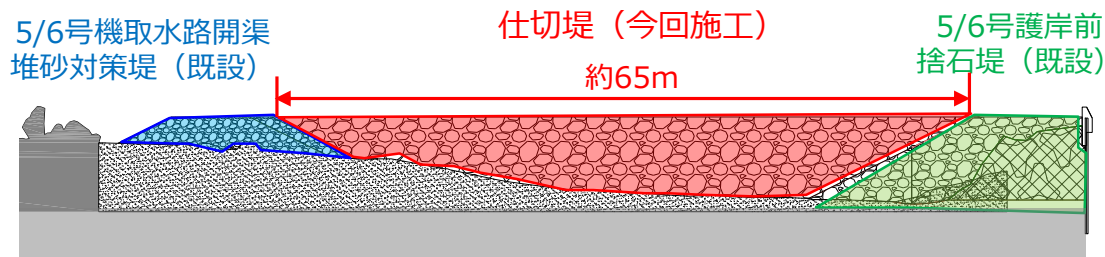
仕切堤平面図



仕切堤構築イメージ図



A-A断面図



B-B断面図

日本海溝津波防潮堤設置工事に伴う アウターライズ防潮堤エリアの施工について

2022.10.7

東京電力ホールディングス株式会社

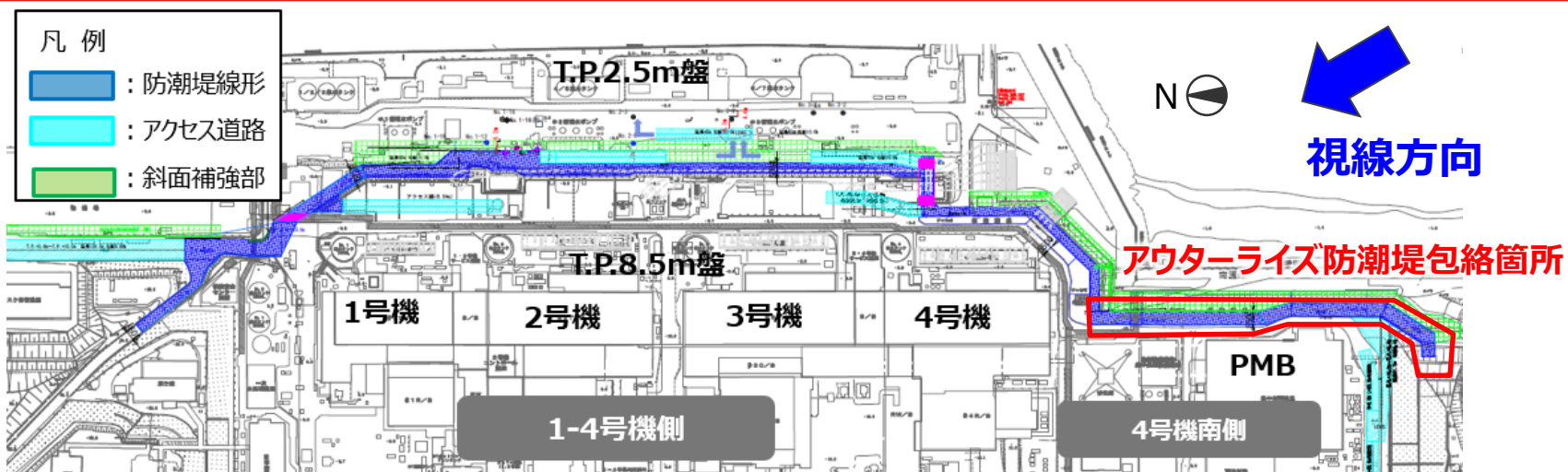


<ご説明内容>

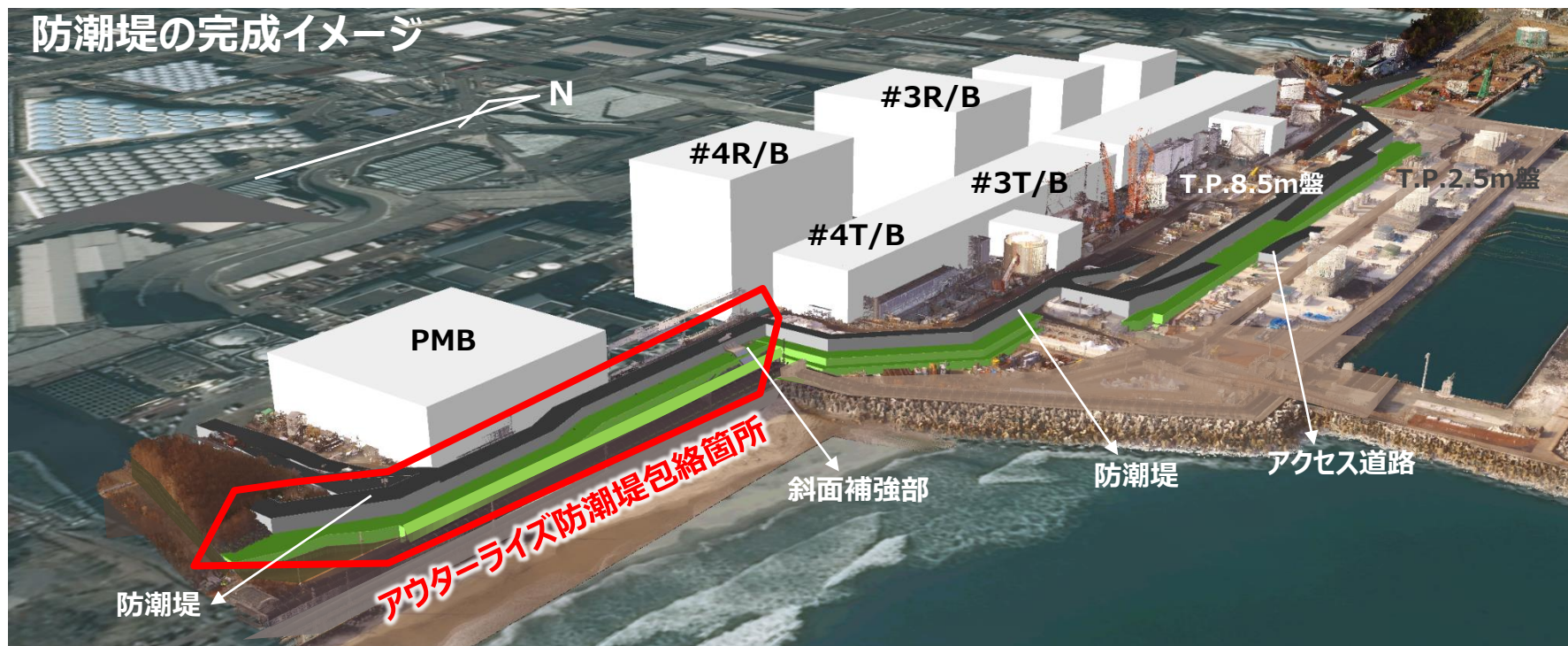
- ① 日本海溝津波防潮堤設置工事に伴いアウターライズ防潮堤を包絡※する規模の防潮堤を設置いたします。
- ② アウターライズ防潮堤は日本海溝津波防潮堤に内包されます。
- ③ 日本海溝津波防潮堤のフラップゲート設置に伴いアウターライズ防潮堤の一部を撤去いたしますが、アウターライズ津波の抑止機能を保持したまま施工を行います。

※日本海溝津波防潮堤はアウターライズ防潮堤、千島海溝津波防潮堤を包絡いたします。

1. 日本海溝津波防潮堤の概要



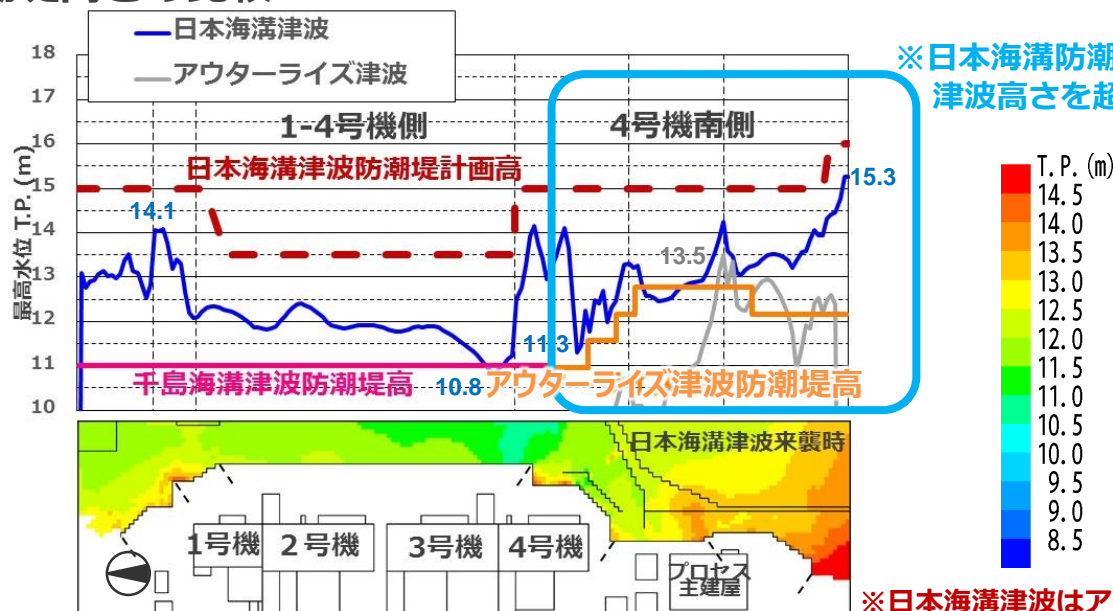
防潮堤の完成イメージ



2. 日本海溝津波防潮堤の規模

- ▶ 日本海溝津波の波高はアウターライズ津波より高いことから、既設のアウターライズ防潮堤より大規模な防潮堤となる。（アウターライズ防潮堤を包絡）

－各津波対策防潮堤高さの比較－ <防潮堤設置予定位置に鉛直無限壁を仮定し、津波解析からの必要防潮堤高（最高水位）>



※日本海溝防潮堤ではアウターライズ津波高を超える防潮堤を構築する。

※日本海溝津波はアウターライズ津波を包絡

単位:m		1-4号機側	4号機南側
アウターライズ津波	解析結果	—	T.P.9.7~12.7(実施計画) T.P.8.6~13.5(今回評価)
	防潮堤高さ	—	T.P.11.0~12.8(実施計画)
千島海溝津波	解析結果	T.P.10.3	—
	防潮堤高さ	T.P.11.0	—
日本海溝津波	解析結果(今回)	T.P.10.8~14.1	T.P.11.3~15.3
	防潮堤計画高さ*	T.P.約13~15	T.P.約14~16

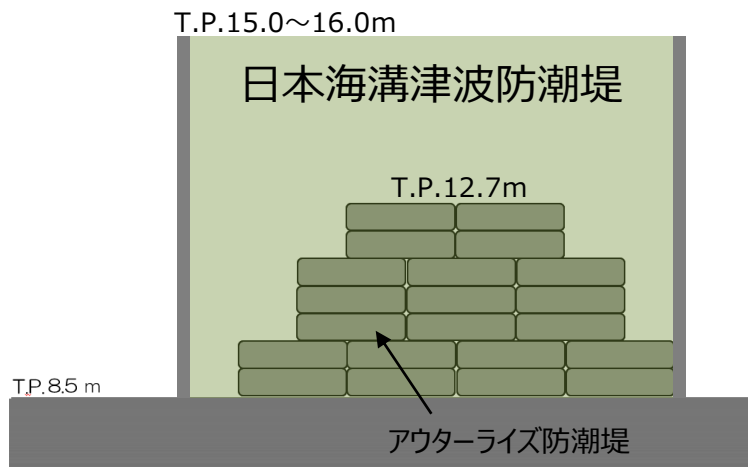
3. 日本海溝津波防潮堤とアウターライズ防潮堤の比較

▶ アウターライズ防潮堤と日本海溝津波防潮堤の設計条件

項目	設計条件				
	解析津波高	津波波力	防潮堤重量	防潮堤高さ	構造
アウターライズ防潮堤	T.P.12.7m	192KN	343KN	T.P.12.7m	フィルターユニット (栗石)
日本海溝津波防潮堤	T.P.15.3m	437KN	884KN	T.P.15~16m	石炭灰再生コン クリート

アウターライズ防潮堤包絡位置での設計条件比較

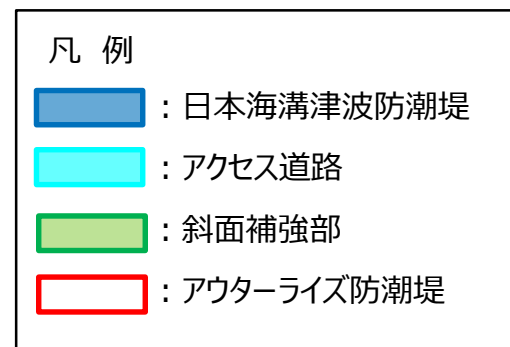
▶ 日本海溝津波防潮堤の完成後のイメージ



日本海溝津波はアウターライズ津波より規模が大きい為、日本海溝津波防潮堤を構築する事でアウターライズ津波対策も包絡される。

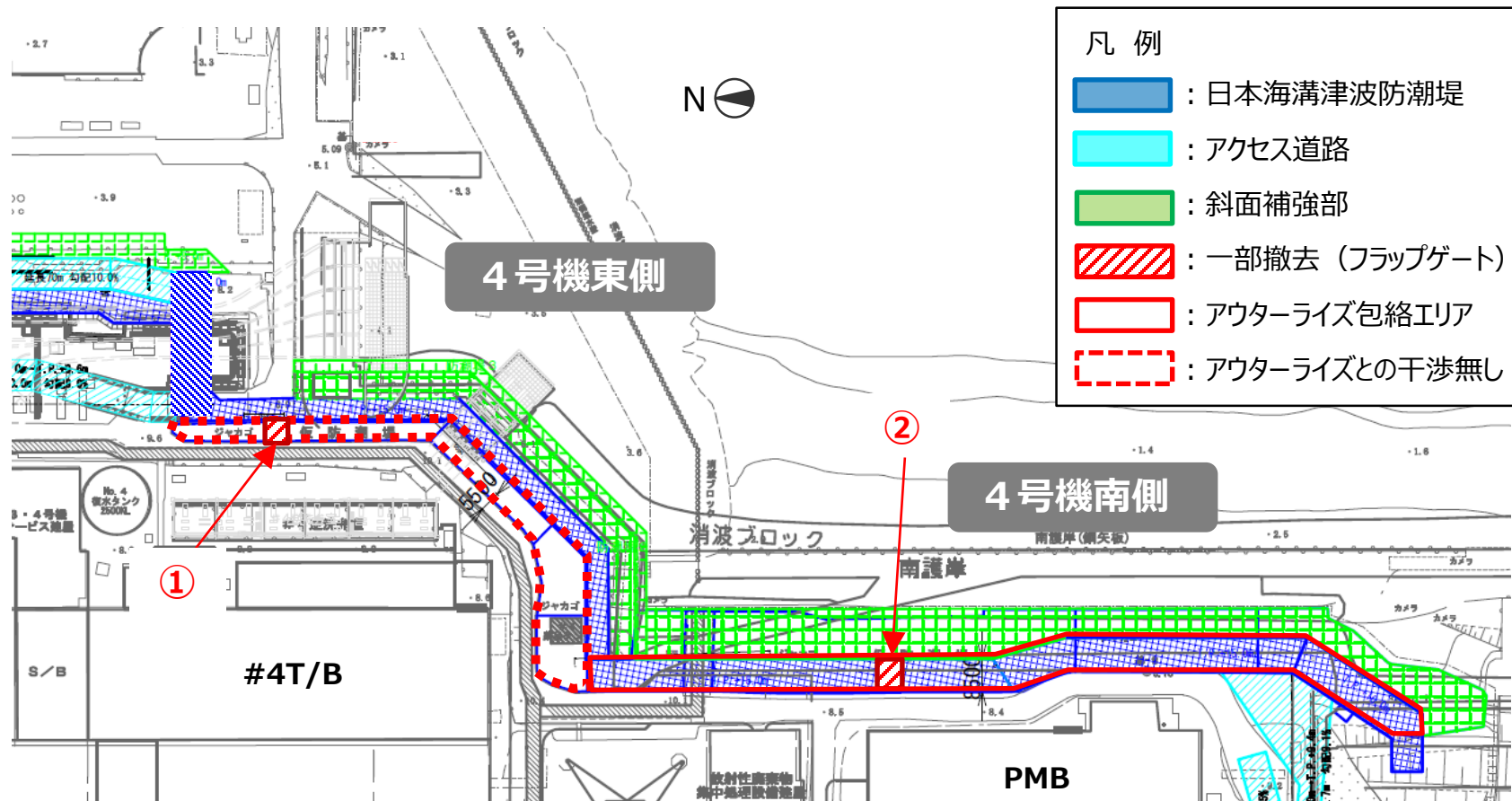
アウターライズ防潮堤は撤去せずにそのまま日本海溝津波防潮堤内部へ埋め立てる。

4. 日本海溝津波防潮堤設置状況（イメージ図）



参 考

アウターライズ防潮堤と日本海溝津波防潮堤の干渉状況

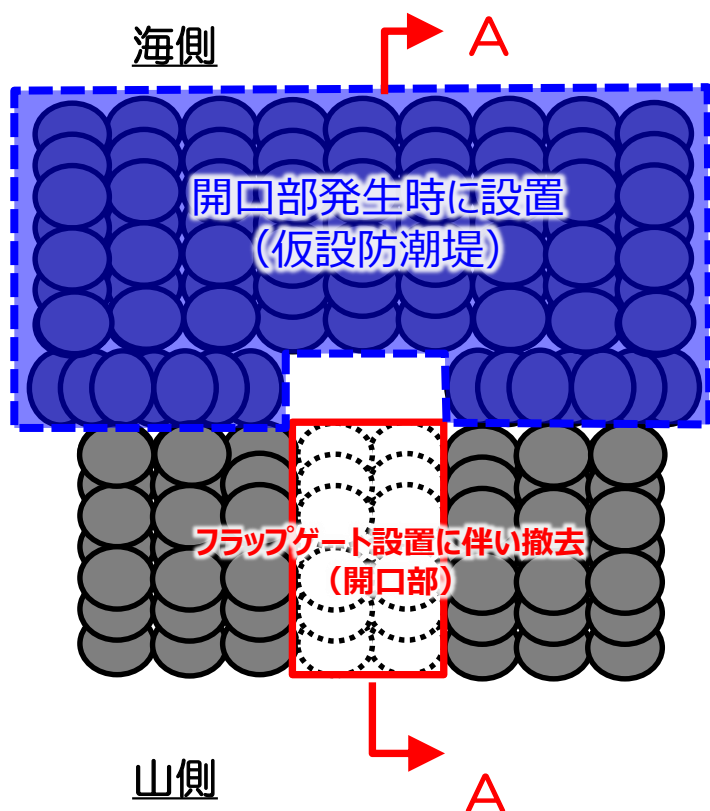


- 4号機東側 (赤点線) はアウターライズ防潮堤と干渉なし。なお、日本海溝津波防潮堤完成後にフラップゲート設置箇所のアウターライズ防潮堤を一部撤去 (①)
- 4号機南側 (赤実線) はアウターライズ防潮堤を覆う形で日本海溝津波防潮堤を設置する。なお、フラップゲート設置箇所については施工に伴いアウターライズ防潮堤を一部撤去 (②)

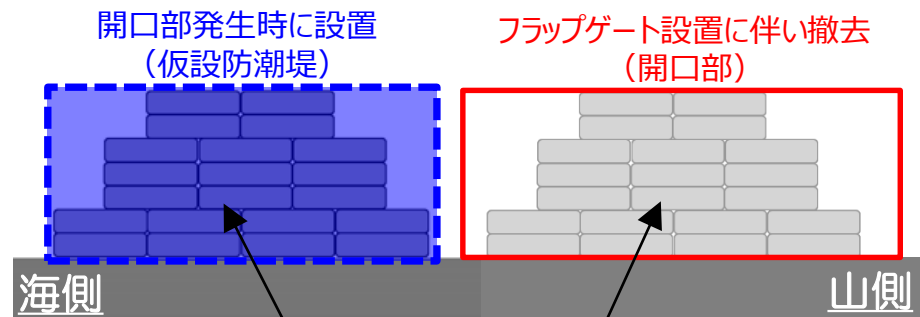
日本海溝津波防潮堤設置工事においてフラップゲートを構築する箇所はアウターライズ防潮堤を一部撤去するため開口部が発生する。

開口部についてはフラップゲートが設置されるまで下図の通り仮設防潮堤を構築する。

フラップゲート施工平面図



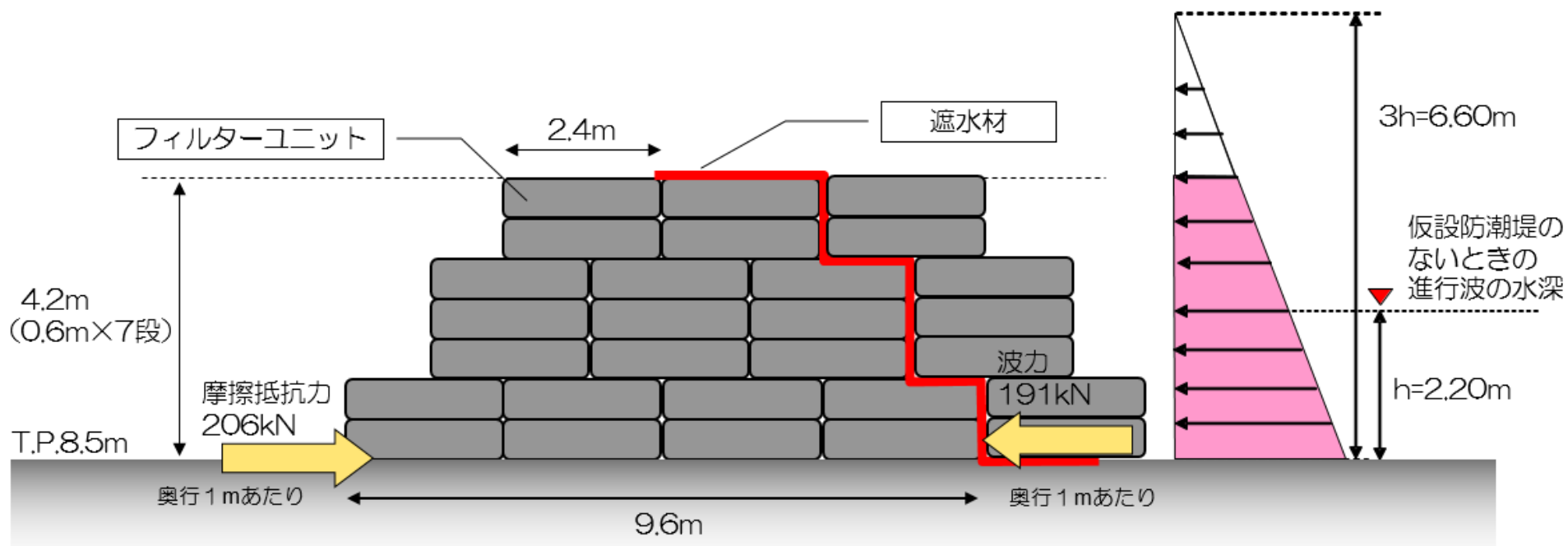
フラップゲート施工断面図 (A-A断面)



撤去する断面と同等のフィルターユニットを設置。
仮設防潮堤を設置してから既設防潮堤の撤去を行う。

【仮設防潮堤の安全性】

アウターライズ防潮堤撤去位置については、同等の仮設防潮堤を全面に設置する事でアウターライズ津波対策を行う。



【仮設防潮堤の遮水材】

仮設防潮堤海側には止水シートを設置、して上からフィルターユニット（寸法：2.4×2.4×0.6）で固定する。

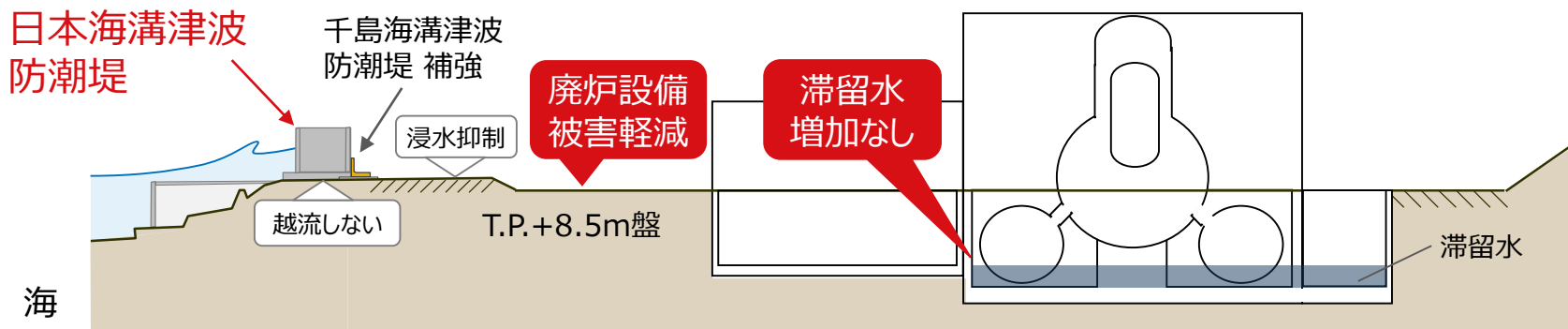
フィルターユニット重量（39.2kN/個） > 津波浮力（3.5m³/個 × 10.3kN/m³）

■ 実施概要・目的

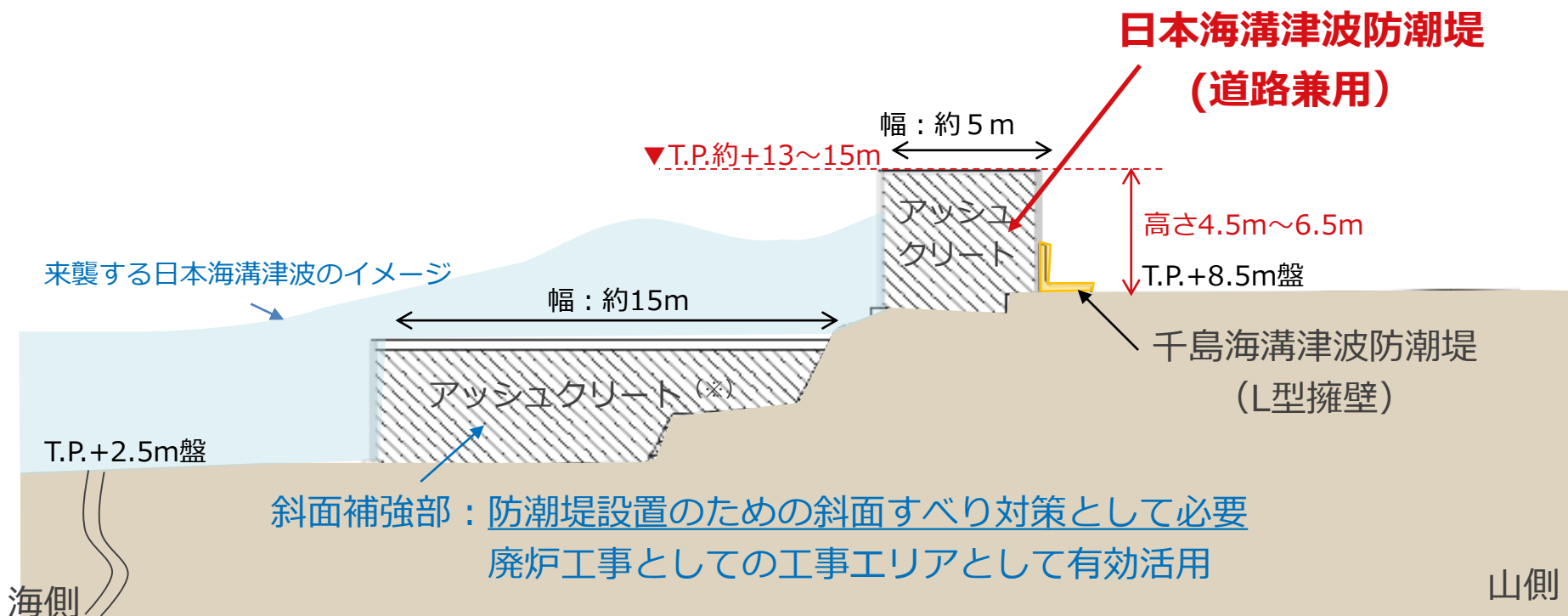
切迫した日本海溝津波への備えに対応することが必要であり、かつ津波による浸水を抑制し建屋流入に伴う滞留水の増加防止及び廃炉重要関連設備の被害軽減することで、今後の廃炉作業が遅延するリスクの緩和に関して、スピード感を持って対応するため、以下の設備対策を講じる

- 千島海溝津波防潮堤の補強工事を先行実施
- その後「日本海溝津波防潮堤」を新規設置

※旧検潮所付近の最高水位	津波規模	対応方針	具体的実施事項
アウターライズ津波	T.P.4.1m	切迫した津波への備え <ul style="list-style-type: none"> ・浸水を抑制し、津波の建屋流入に伴う滞留水の増加防止 ・重要設備の津波被害を軽減することにより、1F全体の廃炉作業が遅延するリスク（プロジェクトリスク）を緩和 ・早期に実現可能な対策を優先 	<ul style="list-style-type: none"> ・アウターライズ津波防潮堤 ・千島海溝津波防潮堤 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千島海溝津波防潮堤補強 ・『日本海溝津波防潮堤』を新設し全体を包絡
千島海溝津波	T.P.10.3m		
日本海溝津波 New	T.P.11.8m		



- 浸水を抑制し、津波の建屋流入に伴う滞留水の増加防止
- 重要設備の津波被害を軽減することにより、1F全体の廃炉作業が遅延するリスク（プロジェクトリスク）を緩和
- 工程短縮を観点に、メガフロート工事で活用中のバッチャープラントを有効活用した構造案（アッシュクリート※）を採用



1 - 4号機側 標準断面図

※アッシュクリート：石炭灰（JERA広野火力発電所）とセメントを混合させた人工地盤材料

濃縮廃液（Dエリア）の 堰内移送について

2022年10月7日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

■ <概要>

- 2021年2月13日及び2022年3月16日に発生した地震により、タンクが滑動し、メーカー推奨変位値を超える連結管が発生している。
- 当該連結管については、漏えいリスク防止の観点から連結弁を『閉』とし、連結管を取り外した上で、連結弁に閉止フランジを取り付けている。
- 比較的高濃度の汚染水を貯留する濃縮廃液貯槽については、メーカー推奨変位値を超える連結管は発生していないが、タンクが滑動した地震の経験及び濃縮廃液の性状を踏まえ、上記と同様の対応をとる事としていた。

■ <今回の報告事項>

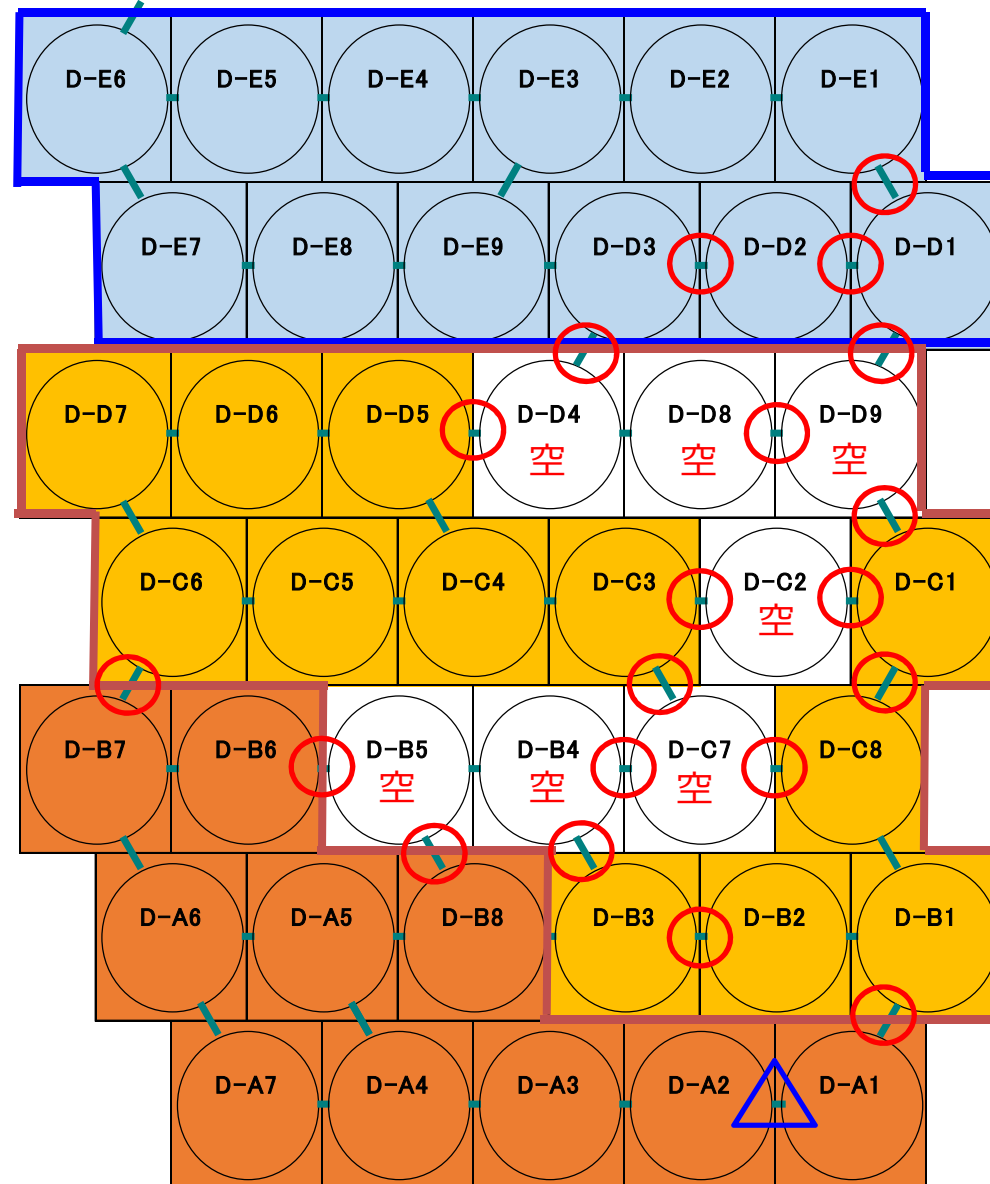
- D-A1・D-A2タンク（濃縮廃液貯槽）間のフランジを少し緩め、連結管内の水を抜き取る際、当初の想定よりも水が出続けていたため、シートパスを疑い、フランジを再度締め付けすることで復旧した。
（当初は、連結管内が満水の場合、約30Lの受入れを想定していたが、約70Lの受入れとなった。）
- 今後の作業については、作業安全確保の観点から、当該タンクの濃縮廃液を同エリアのRO濃縮水貯槽へ移送し、作業を継続したい。
- また、濃縮廃液貯槽の他の連結管についても、同様な処置をしていくことを考えている。（スケジュールについては、現在精査中。）

1. 濃縮廃液（Dエリア）の堰内移送について

【Dエリア 2022.8末時点の貯蔵状況】

■ RO処理水貯留	(7基)
■ 蒸発濃縮処理水貯槽	(5基)
■ RO濃縮水貯槽	(19基)
■ 濃縮廃液貯槽	(10基)
△ シートパスが確認された連結管	
○ 既に取り外し済の連結管	

- D-A1/A2タンク内に貯留している濃縮廃液を一時的にRO濃縮水貯槽へ移送する。(例：D-C2/D9)
- D-A1・D-A2タンク間の連結管を取り外した上で、連結弁に閉止フランジを取り付ける。
- 以降、濃縮廃液貯槽間で移送を行い、順次作業を進める。



2. Dエリアタンクについて

■ 実施計画上の扱いについて

➤ Dエリアタンクは、実施計画上下記の通り分類している。

- ・ R O 処理水貯槽 7基
- ・ 蒸発濃縮処理水貯槽 5基
- ・ R O 濃縮水貯槽 19基
- ・ 濃縮廃液貯槽 10基

- 濃縮廃液を一時的に R O 濃縮水貯槽に入れることになるが、閉止フランジ取り付け後は、速やかに濃縮廃液貯槽に返送する。
- 返送後の R O 濃縮水貯槽に残っている濃縮廃液については、R O 濃縮水（Sr処理水等）を受け入れ、希釈した上でALPS処理する。
- Dエリアのタンクは、全て同仕様で制作されており、R O 濃縮水貯槽で濃縮廃液を受け入れることにタンク仕様上問題は無いと考えている。